

UDC 621.452

# 航空宇宙技術研究所資料

TECHNICAL MEMORANDUM OF NATIONAL AEROSPACE LABORATORY

TM-365

## 高圧形環状燃焼器模型CC50Hの試験結果

田丸 卓・鈴木邦男・堀内正司

石井浅五郎・下平一雄

小倉五郎・黒沢要治

1978年9月

航空宇宙技術研究所  
NATIONAL AEROSPACE LABORATORY

項目	担当者
計測装置	西尾健二 * , 越沼 威 *
実験・計測	酒井規行 ** , 遠崎良樹 ** , 北原一起 ** 中越元行 ** , 国師正一 ** , 藤田武志 **

\* 原動機部

\*\* 川崎重工業(株)

# 目 次

1. まえがき .....	1
2. 供試燃焼器 .....	2
2.1 燃焼器 C C 5 0 H .....	5
2.2 諸計測位置 .....	8
3. 試験方法 .....	12
4. 試験結果 .....	12
4.1 C C 5 0 H / 6 0 . 0 3 の燃焼器特性 .....	12
4.2 供試燃焼器構成要素の影響 .....	18
4.2.1 スワーラと P C D .....	18
4.2.2 燃焼器入口風速分布調整ピンの影響 .....	21
4.2.3 抽気部圧力 .....	23
4.2.4 鈍頭分流板によるデフューザ部での分流 .....	27
4.2.5 ライナの焼け具合 .....	27
5. 燃焼器特性の評価と諸構成要素の影響 .....	29
5.1 供試燃焼器特性 .....	29
5.2 燃焼器構造の評価 .....	31
5.3 P C D とスワーラの選択 .....	31
6. まとめ .....	31
使 用 記 号 .....	32
参 考 文 献 .....	32
付 務 .....	33

# 高压形環状燃焼器模型CC50Hの試験結果\*

田丸 卓\*\* 鈴木邦男\*\*\* 堀内正司\*\*\*\*

石井浅五郎\*\* 下平一雄\*\*

小倉五郎\*\* 黒沢要治\*\*

## 概 要

ターボファンエンジンFJR710/600用燃焼器開発に関連した試作環状燃焼器、呼称CC50Hの実験結果について報告する。この燃焼器は、既報の設計方針に基づいた燃焼器(CC60H)の完成に先立って、既存のケーシングを改造して用いたもので、このケーシングは抽気の構造を持たず、後部外側形状がCC60Hのそれとわずかに異なっている。

この燃焼試験の結果、次の事柄が確認された：供試燃焼器はほぼ設計性能を満足させ得る燃焼器であること、実用性を目指して新しく採用した内側ライナ取はずし構造、噴射弁噴射軸の主軸との平行配置などの構造に格別問題は起きていないこと、などである。

また、今回の試験の結果、燃焼器入口風速調整ピンの影響を明らかにした。スワーラの種類の選択と、燃料噴射弁ピッチ円直径の決定を行った。

## 1 まえがき

通商産業省、工業技術院が主宰する大型工業技術開発制度のひとつに「航空機用ジェットエンジンの研究開発」がある。それに関連して、航空宇宙技術研究所では、現在、昭和51年度より始まった第2期ターボファンエンジン、FJR710/600用の燃焼器を、研究開発中である。

第1期のエンジンは、これまでに第6号機まで製作され、各種の試験を今なお続行中である。

第2期のエンジン用燃焼器は、第1期開発研究で得た

経験と実績をふまえ、排出低減と、より実用性の高い事を目標に開発をすすめている。

ここでは、基礎設計に基づいて製作した試験用環状燃焼器、呼称CC50Hにたいする第1次試験の結果を報告する。

CC50Hは、既報<sup>1)</sup>の設計に従がう本格的試験用燃焼器、呼称CC60Hの完成に先立って、既製の燃焼器<sup>2)</sup>のケーシングを部分的に改造して用いたものである。それらの主要な相違は次の点である。すなわち、CC50Hは抽気ポートを設けていないこと、ケーシング後部の内り形状がCC60Hの場合より少しやせていること、などである。

今回の試験の第1の目的は、CC50H、ひいてはCC60Hが、所要の燃焼器特性を達成できるかを確かめることにある。特に、第1期エンジンの燃焼器よりも

\* 昭和53年8月1日受付

\*\* 原動機部

\*\*\* 機械技術研究所

\*\*\*\* 航空機公害研究グループ

燃焼器上流部体積を大きくしたことにたいする燃焼特性の変化、段つきデフューザの作用、燃料噴射弁の軸を、エンジンの主軸と平行にしたこと、内側ライナを隔壁板直後で切離せる構造としたこと、など新しい試みの可否を判断しようとする。

また、最近のエンジン運転の結果、圧縮機出口では流れに半径方向の速度分布があることがはっきりしてきた。そのため、燃焼器のみの要素試験でも、上流側に風速分布をつくるための「ピン」を植えて、その効果を明らかにし、風速分布のある状態での燃焼試験を行った。

開発の進行上、この時期にこれまで実績のあるスワーラ数種類のうちから、最も適当なものを選ぶ必要があった。また、そのピッチ円直径も最大444mm、最小438mmの範囲で最も適当な値に決定しなければならない。

なお、使用した試験装置は、原動機部6号館の高圧環状燃焼器燃焼試験装置<sup>3)</sup>である。

## 2 供試燃焼器

本報告で記す一連の試験で用いた燃焼器を、CC50Hと総称する。特に使用ライナの種類を区別して示すときは、CC50H/60.01のように記し、異なるライナの種類を小数以下の数字にて表わす。

CC50Hは、既報<sup>1)</sup>に基本設計を示した燃焼器、CC60Hとケーシングのみが異なっている。

まず、CC60Hの主軸を含む断面図を、図1に示す。図1中に番号で指示した部分の名称は、表1に示す。

CC50Hのケーシングは、CC60Hのそれと図2に比較を示す通り、次の3点で異なっている。

- (1) 外側後部内のがりが6mmほど細い。
- (2) 抽気孔を設けていない。
- (3) 出口温度計測位置がターピン入口ノズル相当位置より、約50mm下流の位置にある。

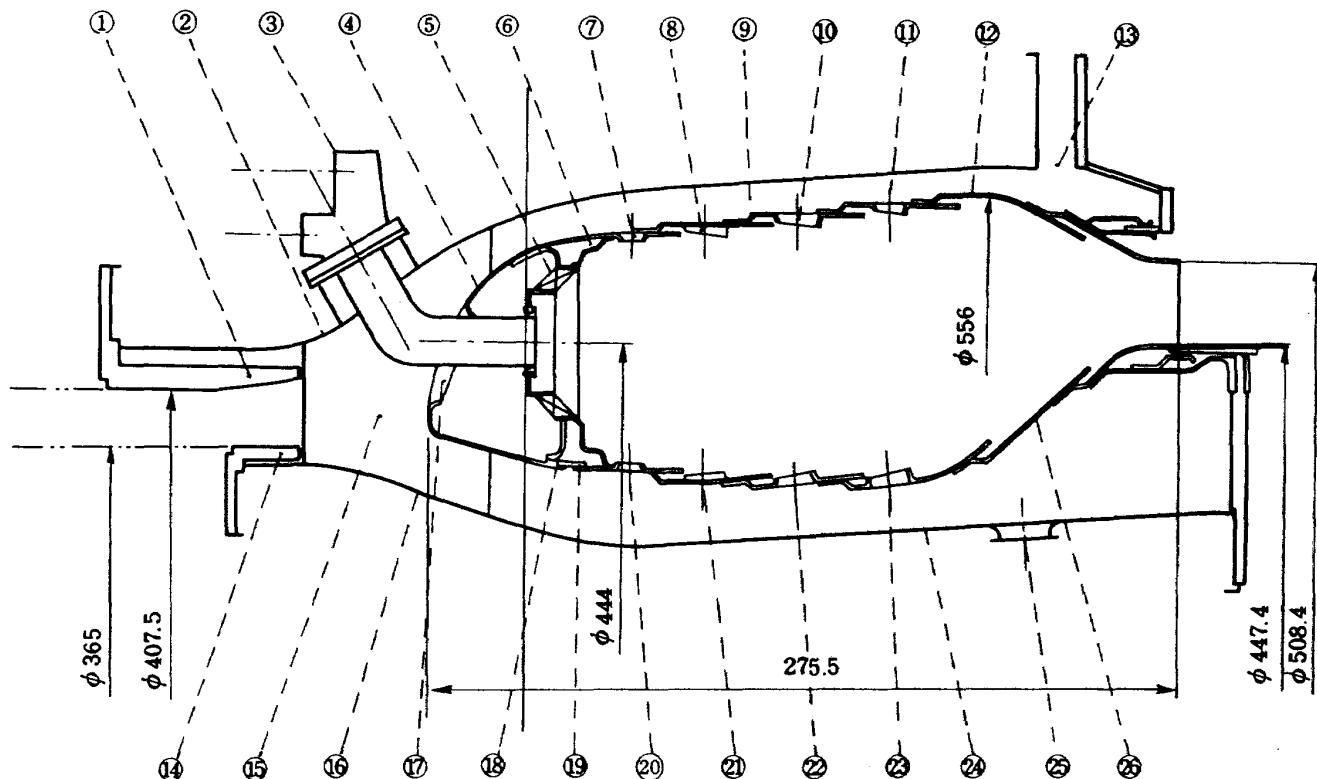


図1 FJR710/600用燃焼器CC60H

表 1 燃焼器各部名称

1 入口ディフューザ(外側)	14 入口ディフューザ(内側)
2 外側ケーシング	15 ストラット
3 燃料噴射弁	16 内側ケーシングデフューザ部
4 分流板	17 分流板空気取入口
5 スワーラ	18 隔壁板
6 遮熱板	19 嵌合せ部分
7 外側ライナ補助空気孔	20 内側ライナ補助空気孔
8 " 第 1 列空気孔	21 " 第 1 列空気孔
9 " 冷却スリット	22 " 第 2 列空気孔
10 " 第 2 列空気孔	23 " 第 3 空気孔
11 " 第 3 列空気孔	24 内側ケーシング
12 外側ライナ	25 内側抽気ポート
13 外側抽気ポート	26 内側ライナ

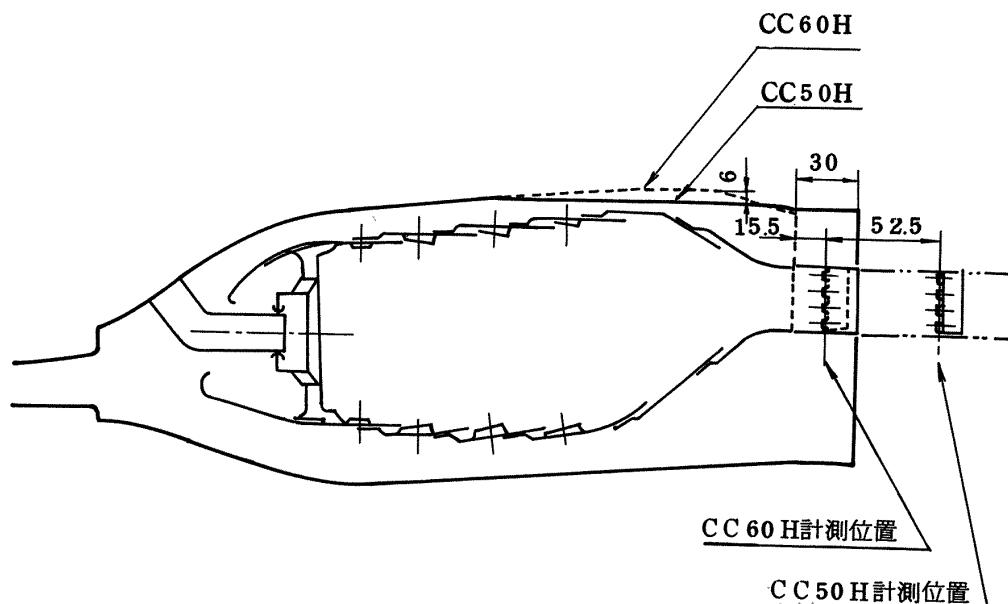


図 2 CC 50 H と CC 60 H のケーシングと出口温度計測位置の相違



図 3 ライナ外観

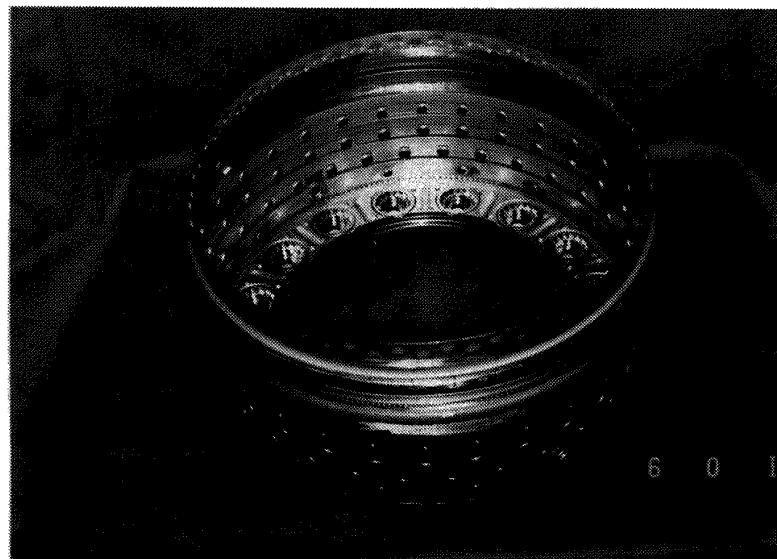


図4 ライナ外側部分

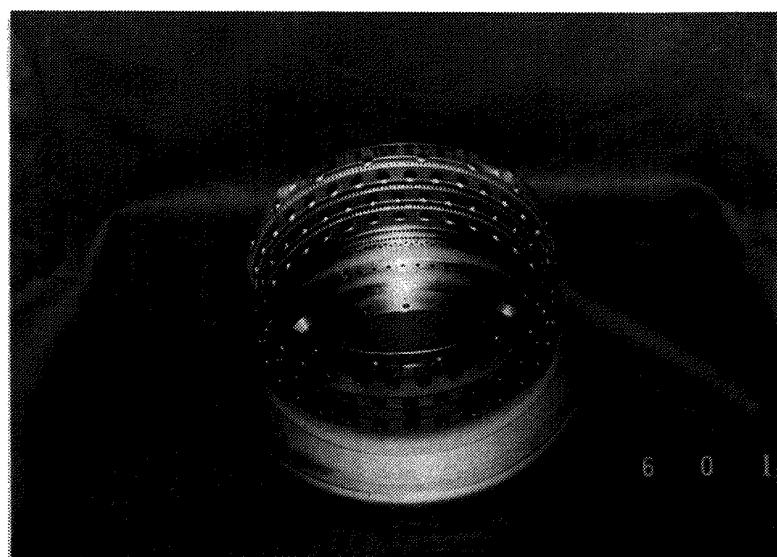


図5 内側ライナ

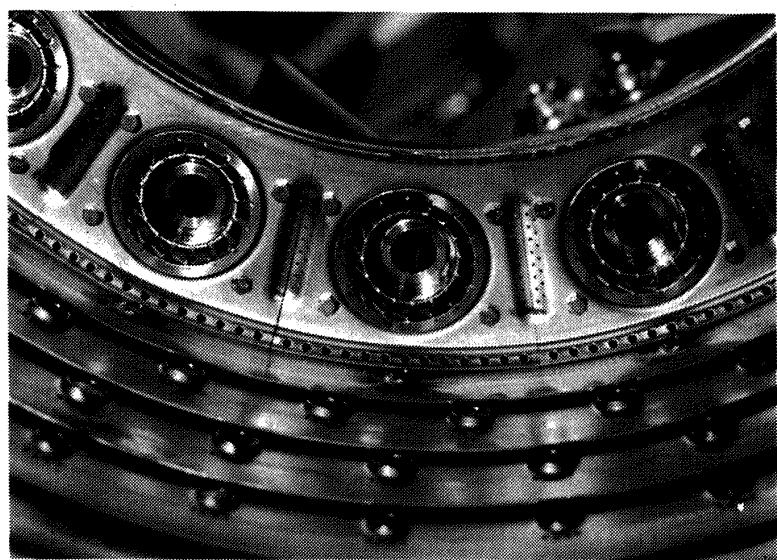


図6 供試ライナのスワーラと隔壁板部付近詳細

ライナ全体の外観を、図 3 に写真で示す。

このライナは、図 1 の⑯に示す部分で分割することができ、図 4 に示す外側ライナを含む本体部分と、図 5 に示す内側ライナ部分に分離できる構造となっている。

図 6 は、 $4.8\phi$  スワーラを取り付けたときの遮熱板付近を示す。

## 2.1. 燃焼器 CC 50 H

CC 50 H のケーシングは、前述のように排出低減研究用環状燃焼器として製作したもの<sup>2)</sup> を改造している。

それ以外の部品については、CC 60 H と同一、すなわち、既報の設計方針に沿う形状のものである。以下に、個々の構成要素につき、略述する。

**鈍頭分流板付ライナ** 鈍頭分流板形状は、図 1 に示すもので、スワーラへ流入する空気の取入口の直径は、 $32\text{ mm}$  である。

内、外ライナの空気孔配列は、図 7 にそれぞれ示す通りである。各空気孔は、それぞれ、内、外ライナで対向し、燃焼器主軸に関し相似位置にある。

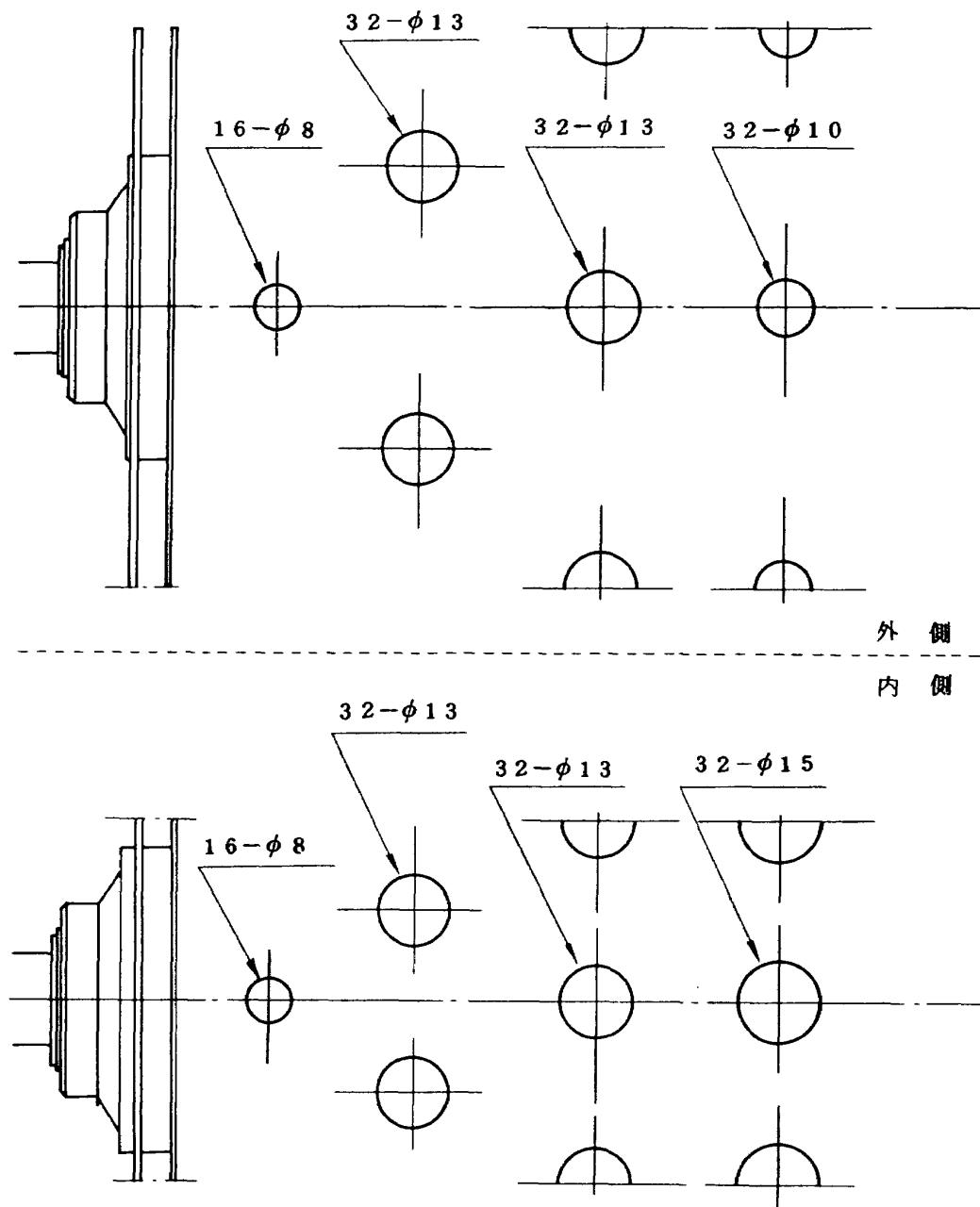


図 7 内外ライナ空気孔配列（内外ライナ代表壁面で展開）

**燃料噴射弁** 使用噴射弁の構造は、図 8 に示す。

吐出燃料圧力にたいする燃料流量特性は、既報<sup>1)</sup>に示した通りである。吐出流量の許容公差は表 2 に、燃料圧力にたいする噴霧角、およびその許容公差は、表 3 に示す。

**スワーラ** 今回の一連の試験では、次の 2 種類のスワーラを用いた。すなわち、設計で標準と考えた呼称  $48\phi$  スワーラと、FJR710 の第 1 期エンジン<sup>4)</sup>に用いて実績のある  $54\phi$  スワーラである。

それらのスワーラの形状を図 9 にそれぞれ示す。

**PCD** 今回の試験で決定を期待された事項のひとつ、PCDについて、 $43.8\text{ mm}$ 、および  $44.4\text{ mm}$  の 2 種について試験した。それぞれの場合の噴射燃料噴霧円

錐仮想線と、ライナ空気孔との相対位置関係を図 10 に示す。

主軸を中心とする直徑  $44.4\text{ mm}$  の円筒面は、一次燃焼領域ライナ内容積を、ほぼ 2 分する。これは、燃焼領域における燃料分配の観点からは望ましい。しかし、燃料噴霧円錐の延長線がライナに到達する位置を見ると、内外ライナのあいに対する空気孔にたいして異なった衝突の仕方を呈する。これは、保炎上、およびライナ焼損や炭素堆積等に今後問題を生ずる可能性を残している。

PCD を  $43.8\text{ mm}$  とすると、燃料噴霧円錐は、内、外ライナ空気孔にたいして、互に対称的な衝突の仕方となる。

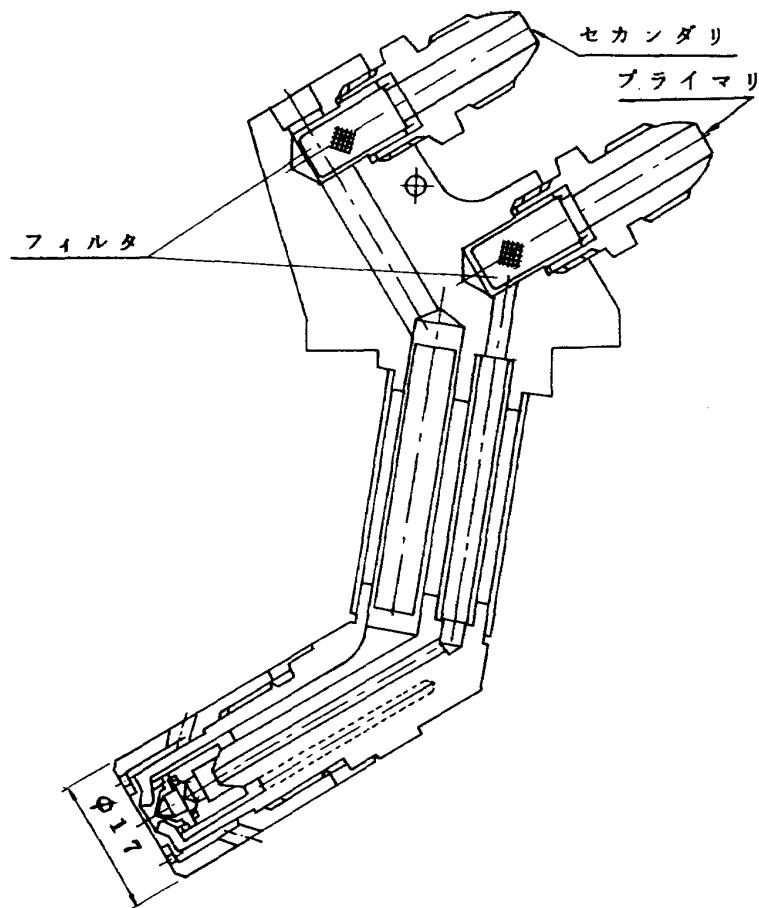


図 8 燃料噴射弁の構造

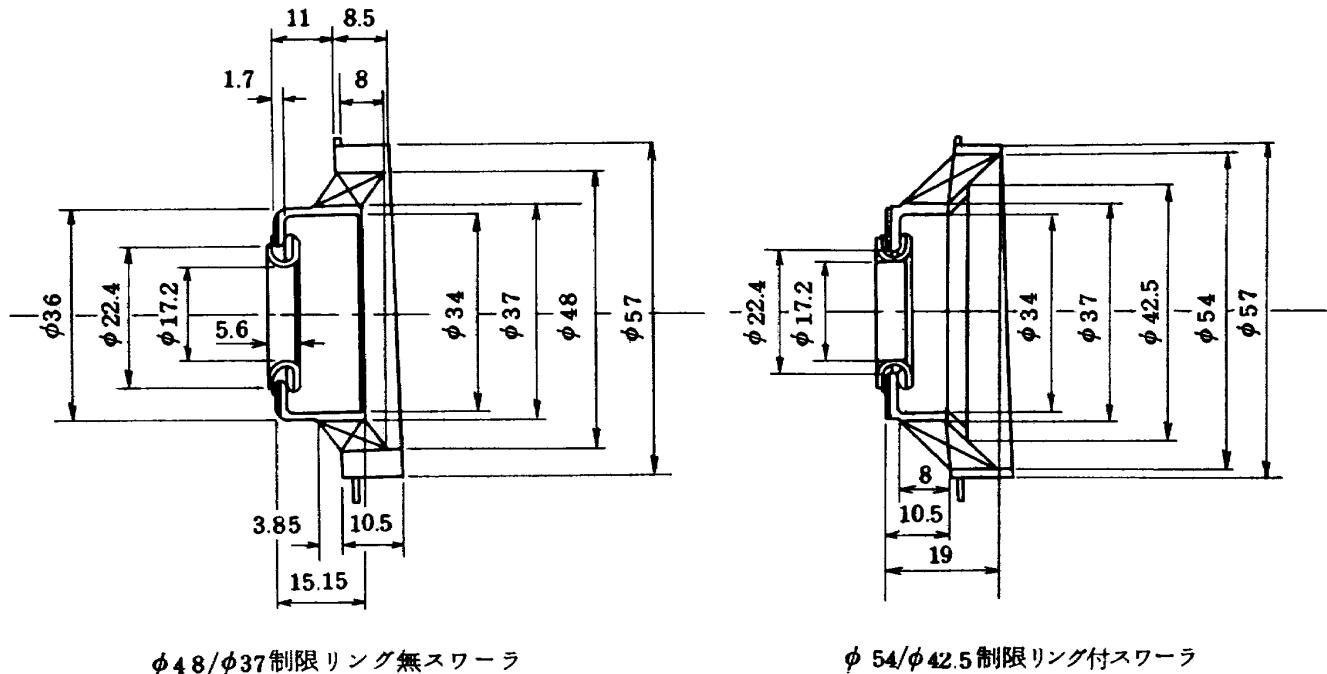


図9 供試スワーラ

表2 燃料噴射弁流量特性

燃料圧力 [ $\text{kg}/\text{cm}^2 \text{G}$ ]		流量 [ $\text{g}/\text{s}$ ]	許容公差 [%]
プライマリ	メイン		
3.52	0	2.0	3
10.55	0	3.47	4
0	3.52	15.5	4
0	14.06	31.0	3
18.28	0	4.57	4
18.28	18.28	39.93	3

燃料圧力 [ $\text{kg}/\text{cm}^2 \text{G}$ ]		噴霧角 [°]	許容公差 [°]
プライマリ	メイン		
3.52	0	90	±10
10.55	10.55	95	±5
18.28	18.28	95	±5

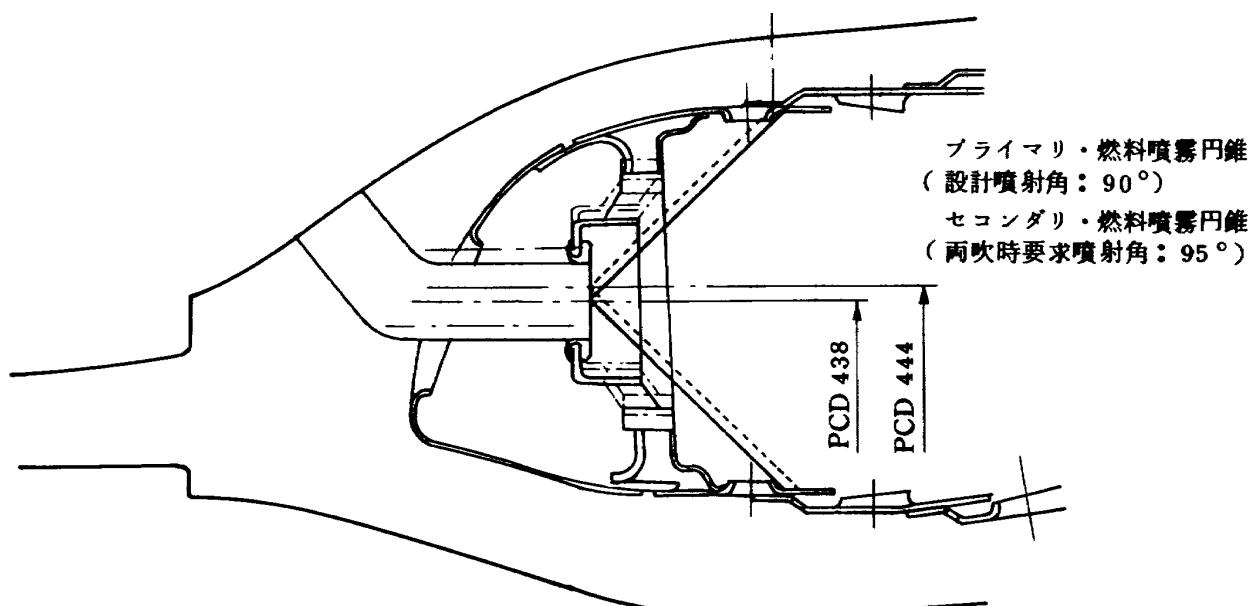


図10 燃料噴射弁 P C D の相違と燃料噴霧円錐・空気孔の相対位置関係

## 2.2 諸計測位置

CC 50H の諸計測は、次のような箇所について行っている。

- ① 燃焼器入口全圧（円周 1 ケ所、半径方向 2 点）
- ② 燃焼器入口全温（同上）
- ③ 入口デフューザ後縁通路中心全圧（円周 1 ケ所、1 点）
- ④ 外側ケーシング壁面静圧（円周方向 1 ケ所、軸方向 10 点）
- ⑤ 内側ケーシング壁面静圧（円周方向 1 ケ所、軸方向 9 点）
- ⑥ 隔壁板近傍 ライナ・ケーシング間環状通路、通称「肩部」全圧（内、外通路、各 1 点）

- ⑦ 燃焼器出口全圧（円周 1 ケ所、半径方向 4 点）
- ⑧ 燃焼器出口全温（円周 8 ケ所、半径方向 8 点）
- ⑨ 燃焼器出口ガス採取（出口環状路中心、円周方向 TOP より  $135^\circ$ （スワーラ中間）、または  $146^\circ 15'$  の位置、それぞれ 1 点）

以上の諸計測の円周方向位置のライナ空気孔などとの相対位置関係を、模式的に示したものが図 1 1 である。

図 1 2 には、ケーシング壁静圧測定位置を、図 1 3 には、「肩部」全圧測定位置を、図 1 4 には、燃焼器出口での全温、全圧計測位置を、そして図 1 5 に出口排出ガス採取位置をそれぞれ示す。

図 1 6 と 1 7 に、使用した 4 点出口全圧管、および出口温度計の寸法形状を示す。

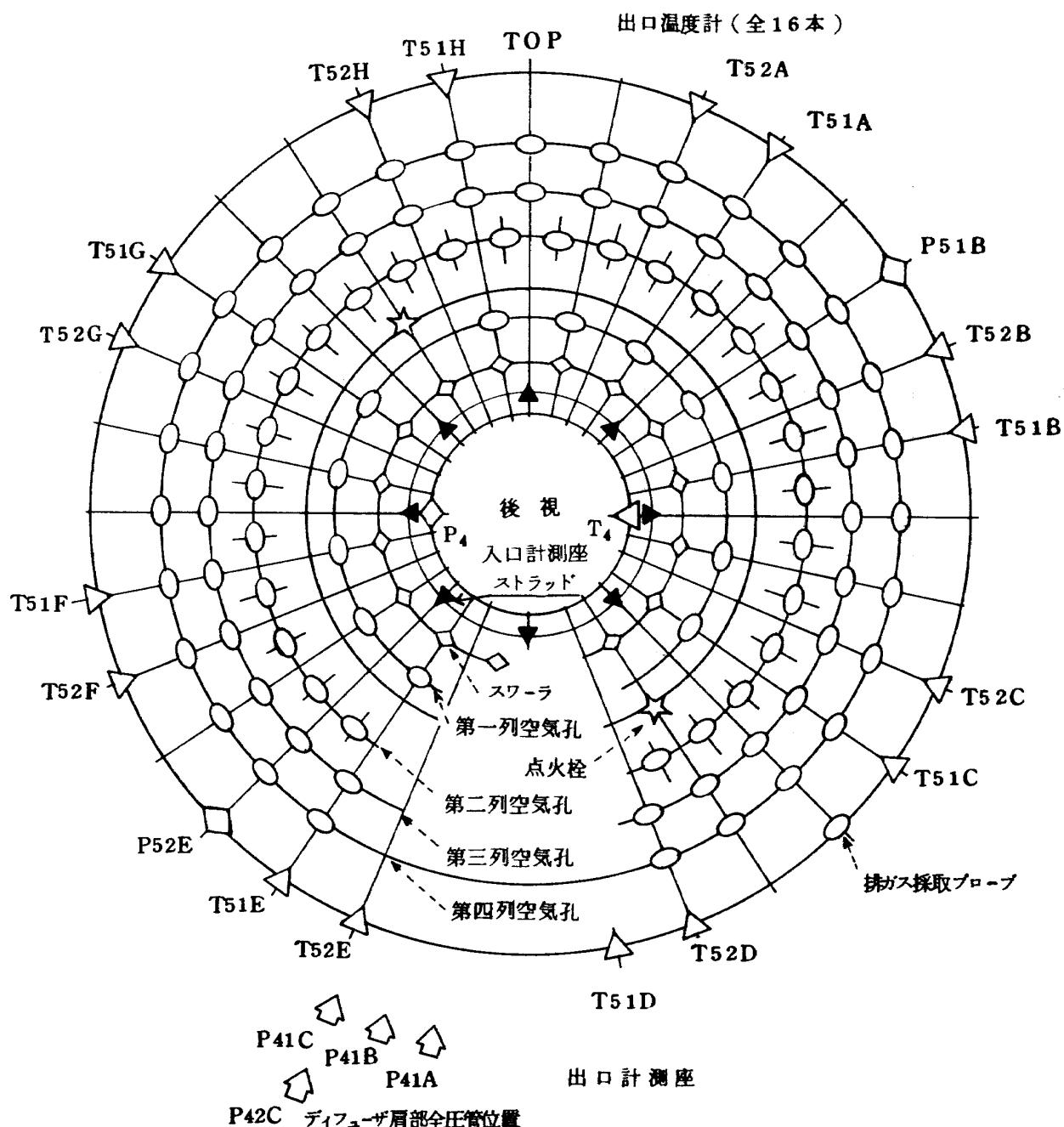


図 1 1 CC 50H 計測箇所円周方向位置

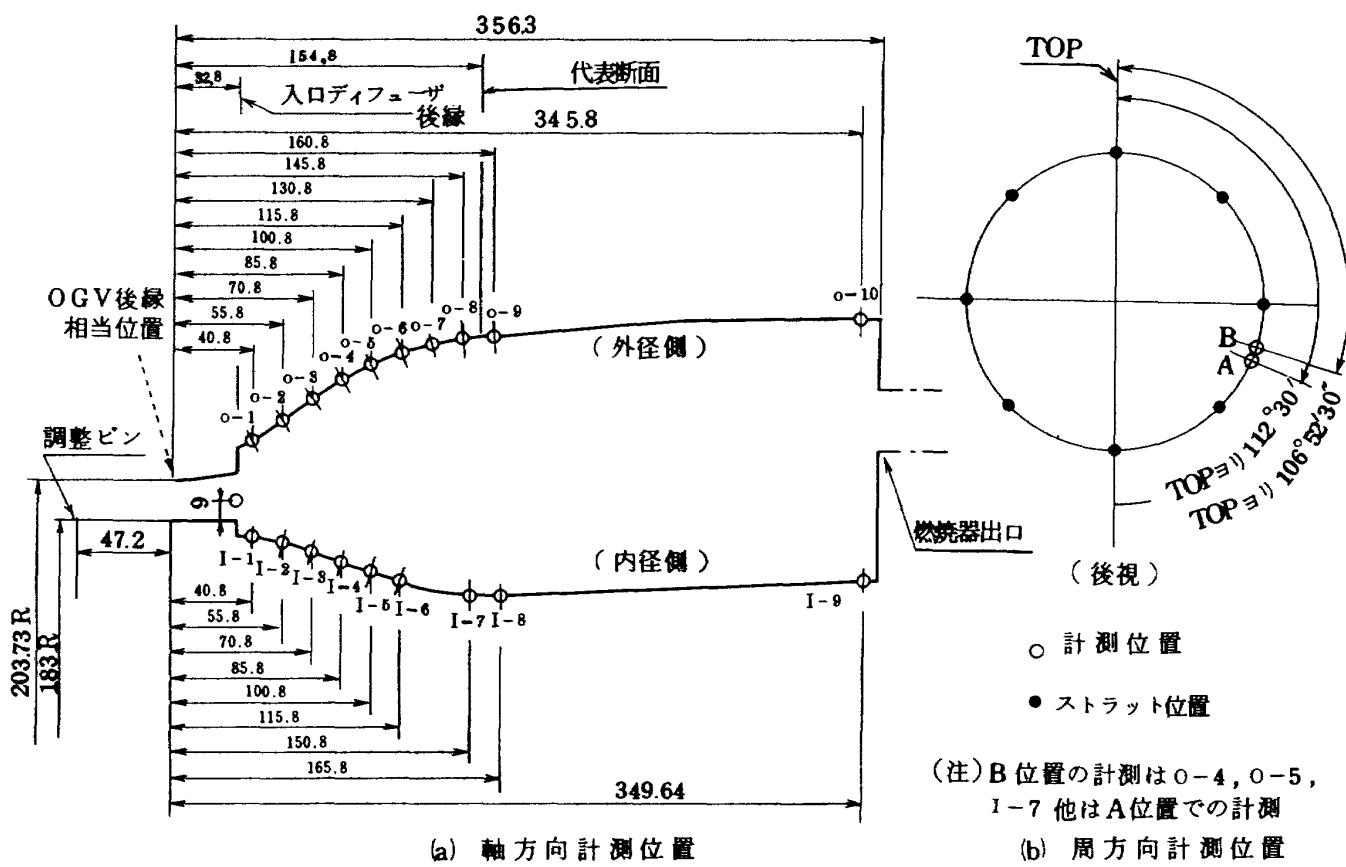


図 1-2 CC 50 H 壁圧計測位置

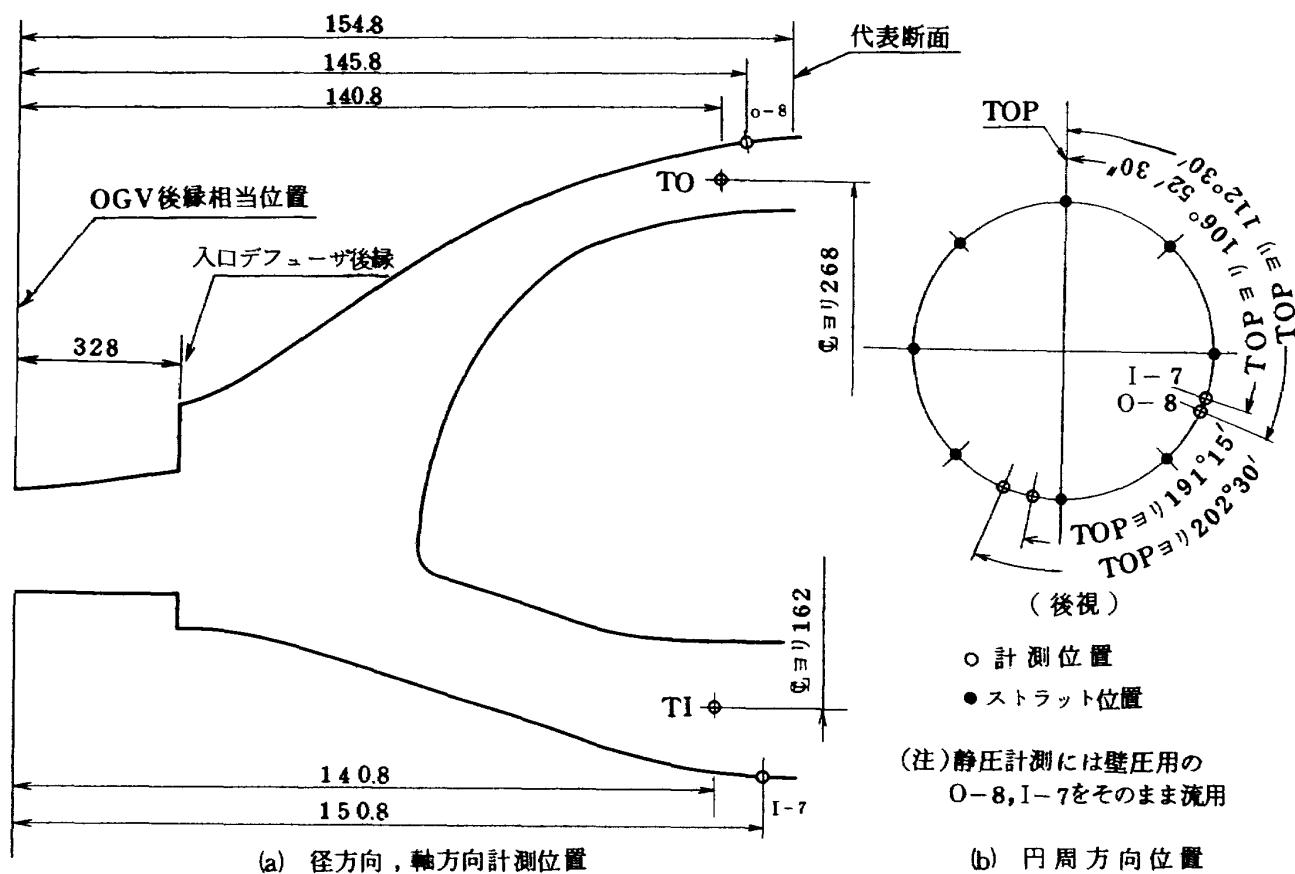


図 1-3 CC 50 H ディフューザ肩部全圧・静圧計測位置

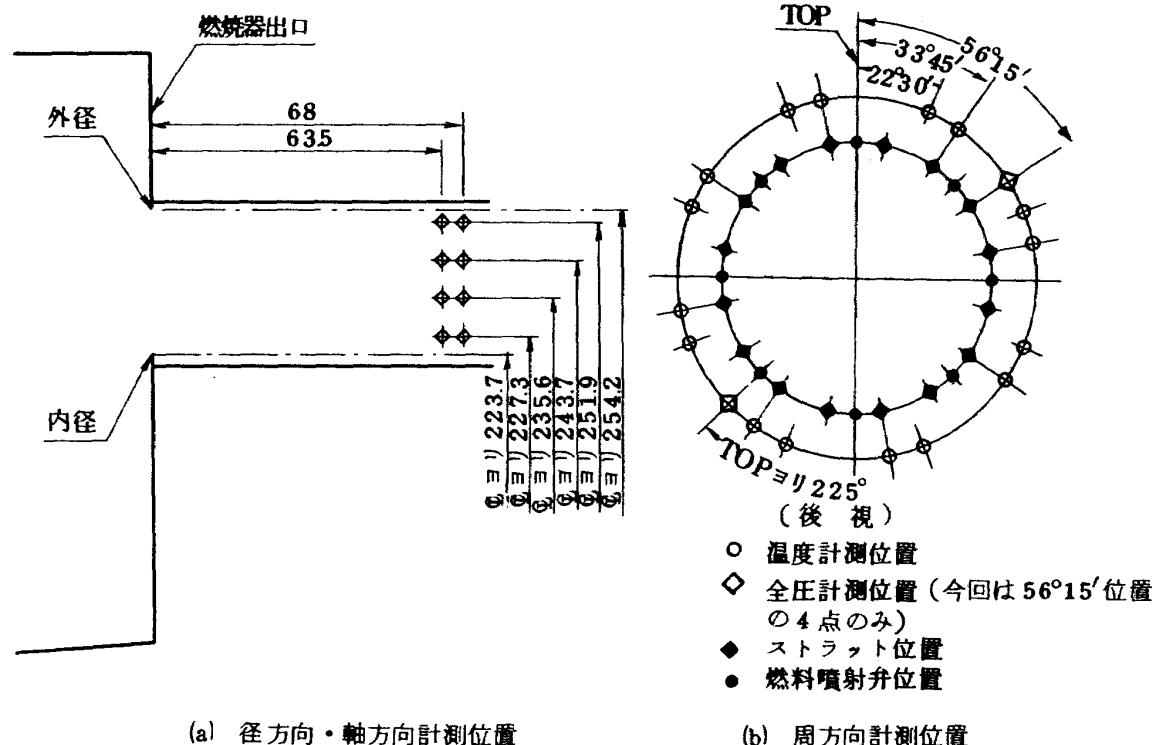


図14 CCC 50H出口温度・全圧計測位置

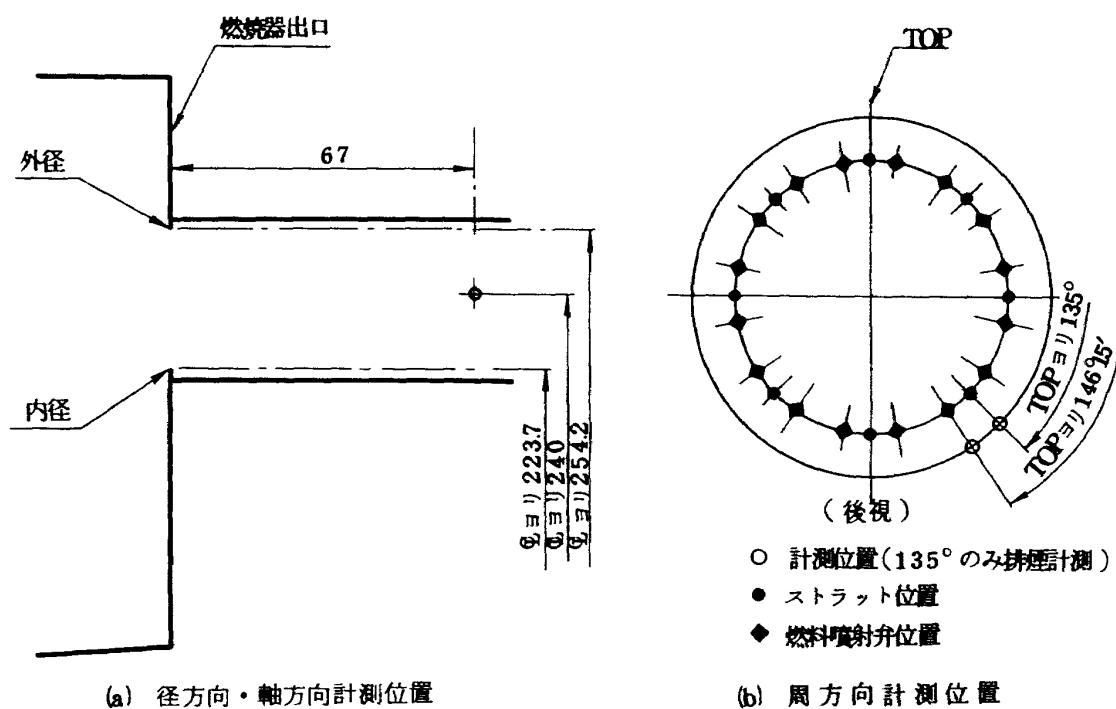


図15 CCC 50H出口排出ガス採取位置

## 高圧形環状燃焼器模型 C C 5 0 H の試験結果

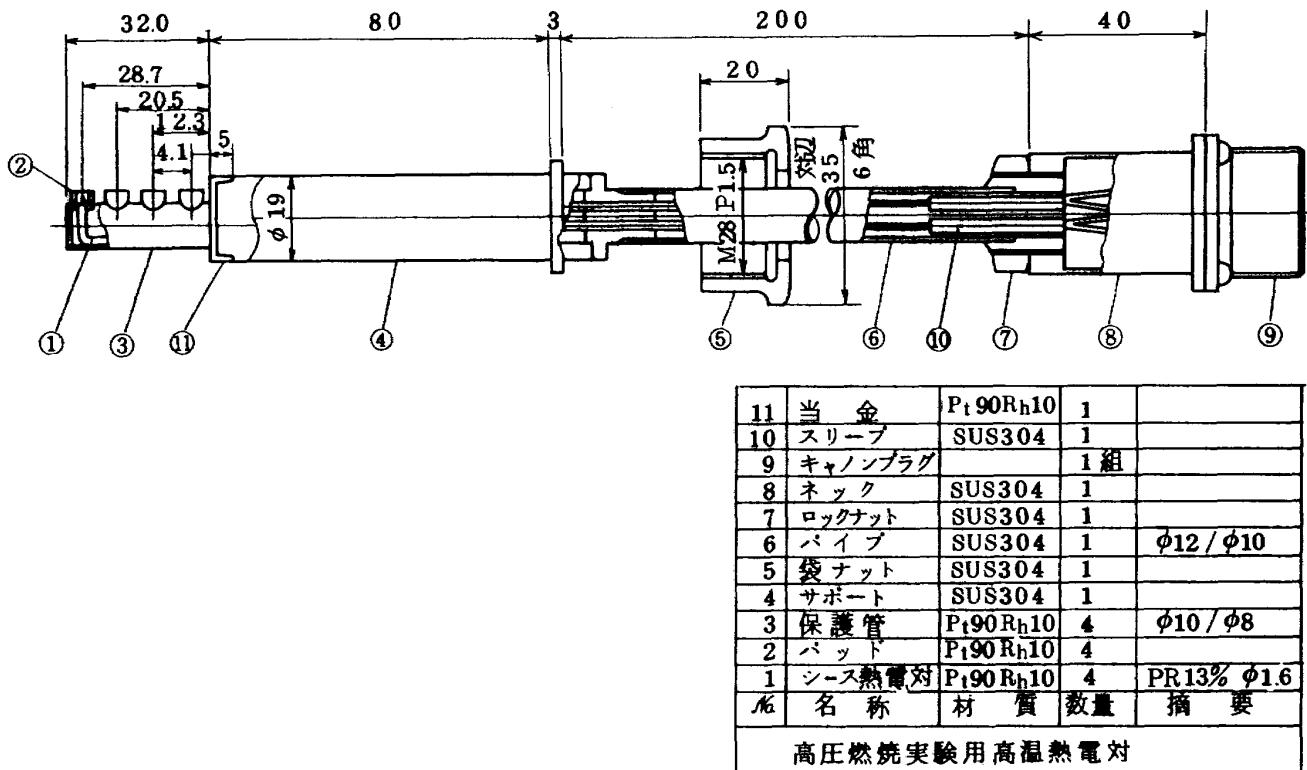


図16 出口温度計

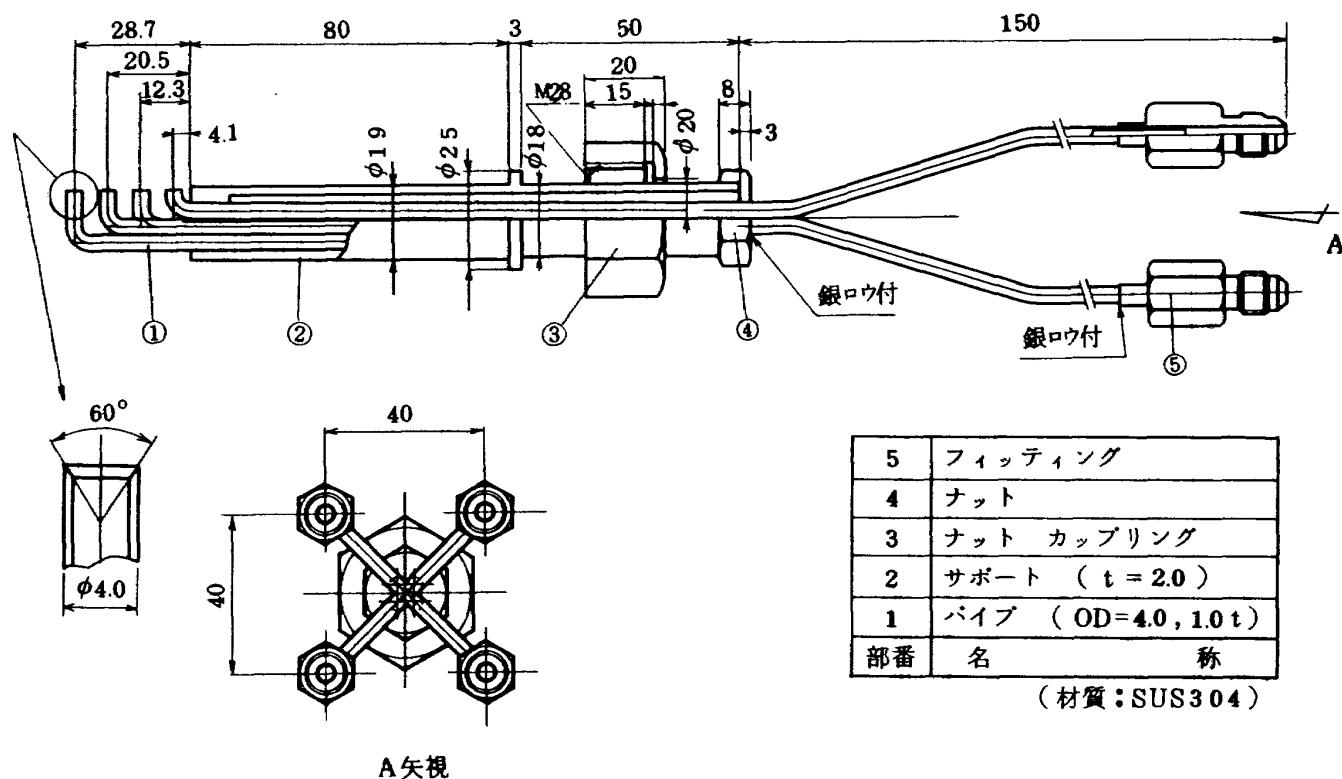


図17 出口全圧計測管

### 3 試験方法

今回行った試験の種類を、表4にまとめて示す。

表4 供試燃焼器種類

ケーシング 呼称	ライナ			データ番号
	P C D	スワーラ	呼称	
CC50H	444	48φ	60.01	780208 780210* 780213
		54φ	60.02	780217 780221*
				780225 780304**
	438	48φ	60.03	780306 780307* 780308*
CC51H (ピン無)				780313
CC52H				
CC50H		54φ	60.04	780227

\* 通風テスト

\*\* シリーズ運転

ライナは大別してP C Dが444mmの60.01と60.02、およびP C Dが438mmの60.03と60.04に区別できる。それらのうち、60.01と60.03は、48φスワーラを用いたものであり、60.02と60.04は、54φスワーラを用いている。

ケーシングはCC50Hが標準的なもので、CC51は、入口デフューザ部に風速分布調整ピン（以下、単にピンという）が無いものである。また、CC52Hは、肩部の円周方向全圧分布を知るために、全圧管を2本追加して設けたケーシングである。

通風試験時には、空気源として、原動機2号館の3,700 kW空気圧縮機<sup>5)</sup> または専用設備の10,000 kW空気圧縮機を使用した。前者の場合、燃焼器入口部分での空気温度は280~300K程度である。

燃焼試験の際には、ほぼ大気圧条件で着火し、その後、任意の供試条件へ燃料と空気を設定した。着火時の代表断面風速は、7m/s前後で、着火燃圧は2~3kg/cm<sup>2</sup>G未満であった。

通常の燃焼試験は、空気源として、試験装置専用の10,000 kW空気圧縮機のみを用いた。

データ番号780304の燃焼試験の場合には、まず、3,700 kWの空気圧縮機（原動機2号館）で2.7kg/cm<sup>2</sup>まで昇圧し、さらにそれを上記10,000 kW圧縮機で12kg/cm<sup>2</sup>近くまで上昇させる、いわゆるシリーズ運転を行った。

後述、表5の各試験の際には、試験によるライナの「焼け」の具合を観察するため、前回の試験による「焼

け」の模様が残っている部分は磨いて消去した後試験に供した。

今回使用した燃料はJet A-1である。

### 4 試験結果

P C Dが438mmで48φスワーラを用いた燃焼器（CC50H/60.03）を標準とみなし、その燃焼器特性を4.1に述べる。

4.2以降では、スワーラ、P C D、ピンの有無など、諸燃焼器要素を変えた結果を4.1の結果と比較、対照しながら示す。また、設計時の諸見積値が、どの程度CC50Hで実現されているか、鈍頭分流板によるライナ内外環状通路への分流状況、抽気部相当位置での所要圧力、その他、燃焼試験後のライナ観察状況などを記述する。

なお、全実験の条件と燃焼器主要特性を、巻末に付録として表示する。

いくつかの代表的な条件では、排煙の計測も行った。その結果はそれらの付録の表中、備考欄に示す。排煙測定結果の最大値は、 $P_4 = 11.2 \text{ kg/cm}^2$  ( $f = 0.02$ ,  $T_4 = 680 \text{ K}$ )のときで、バッハラッハ煙濃度指数で6であった。それ以外の条件では、5以下であった。

#### 4.1. CC50H/60.03の燃焼器特性

燃焼器入口圧力 $P_4$ が2.5~6.8kg/cm<sup>2</sup>のときの、燃空比 $f$ にたいする燃焼効率 $\eta_b$ の変化を、図18に示す。

$P_4$ がごく低い着火時直後の2点を除けば、 $f$ が増加するに従がって、やや $\eta_b$ が低下する傾向を示す。

同一の $f$ の値にたいして、 $P_4$ が $\eta_b$ へ及ぼす影響を見ると、図19のよう $P_4$ が高いほど $\eta_b$ は向上する傾向にある。

全圧損失係数 $\phi$ は、図20に示す通り、 $P_4$ 、代表断面風速 $U_r$ 、あるいは温度比 $T_5/T_4$ にほとんど依存しない、ほぼ40程度の値である。ただし、図20の $\phi$ は、入口全圧としてピンの上流で計測した値を用いて求めている。

図21には、通風時のケーシング壁圧分布、および入口、肩部、それに抽気部相当位置での全圧値を、OGV後縁相当位置と燃焼器出口部との全圧差 $\Delta P$ で無次元化して示す。

燃焼時と通風時のそれらの値を比較したものが、図22である。デフューザ壁面などでの静圧が、わずかに燃焼時には高くなる違いがある。

燃焼器出口での温度不均一率 $\delta_t$ は、図23のようである。目標の $\delta_t$ が平均温度上昇800Kで0.2である

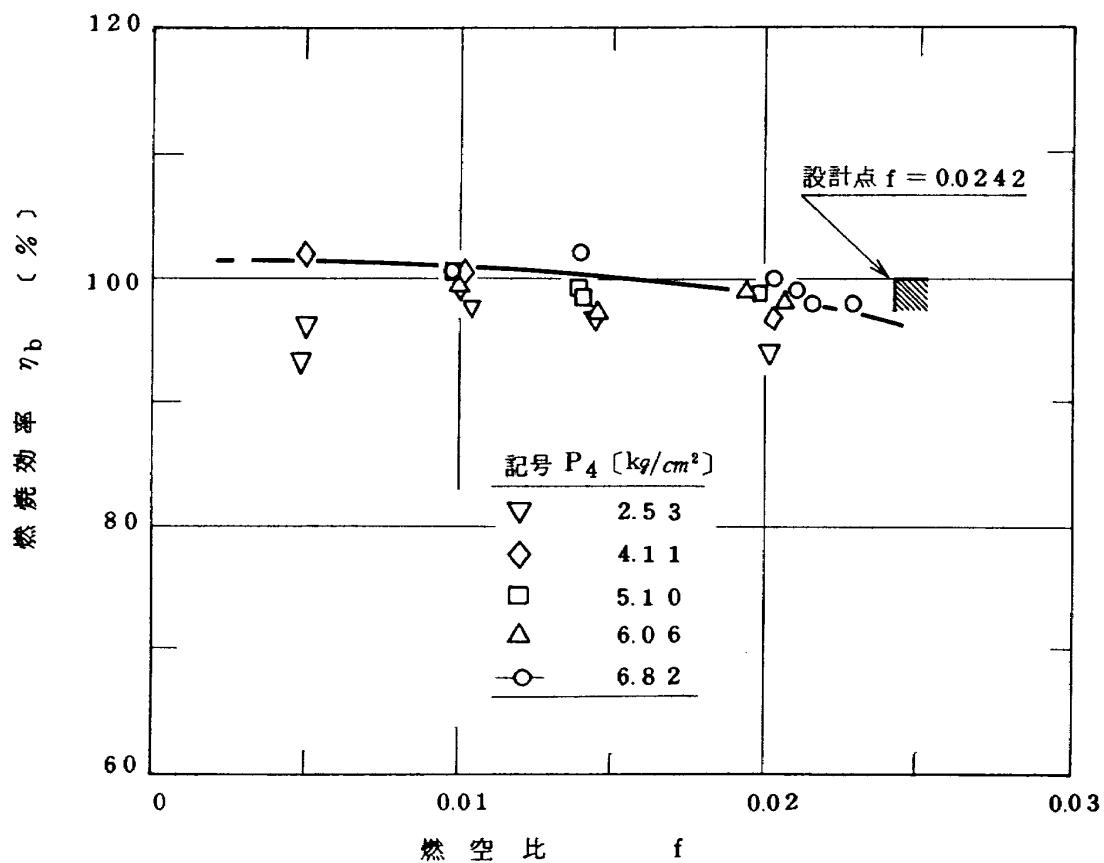


図 18 ライナ 6.03 の燃焼効率特性

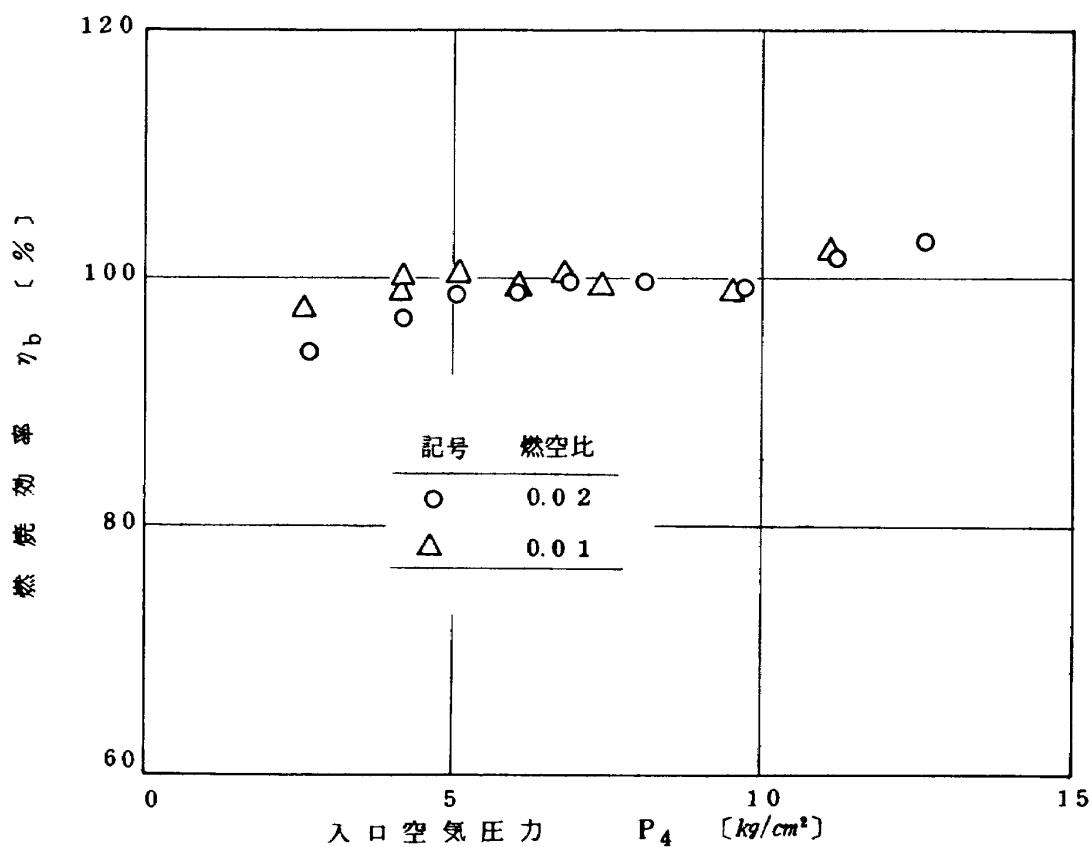


図 19 圧力にたいする燃焼効率の変化

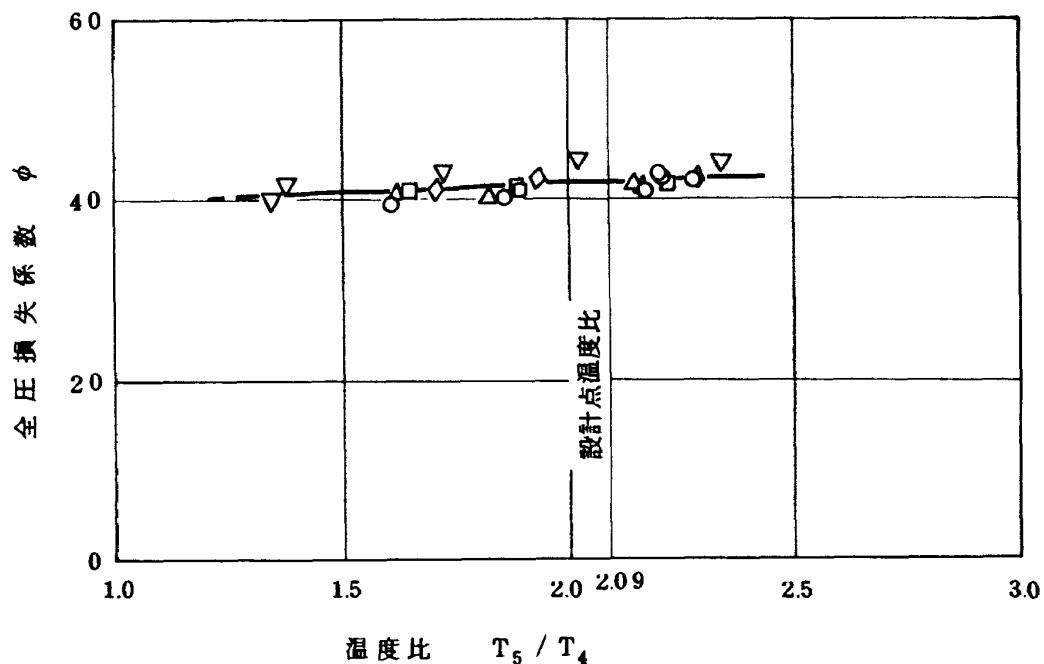


図 20 ライナ 60.03 の温度比にたいする全圧損失係数（記号は図 18 と同じ）

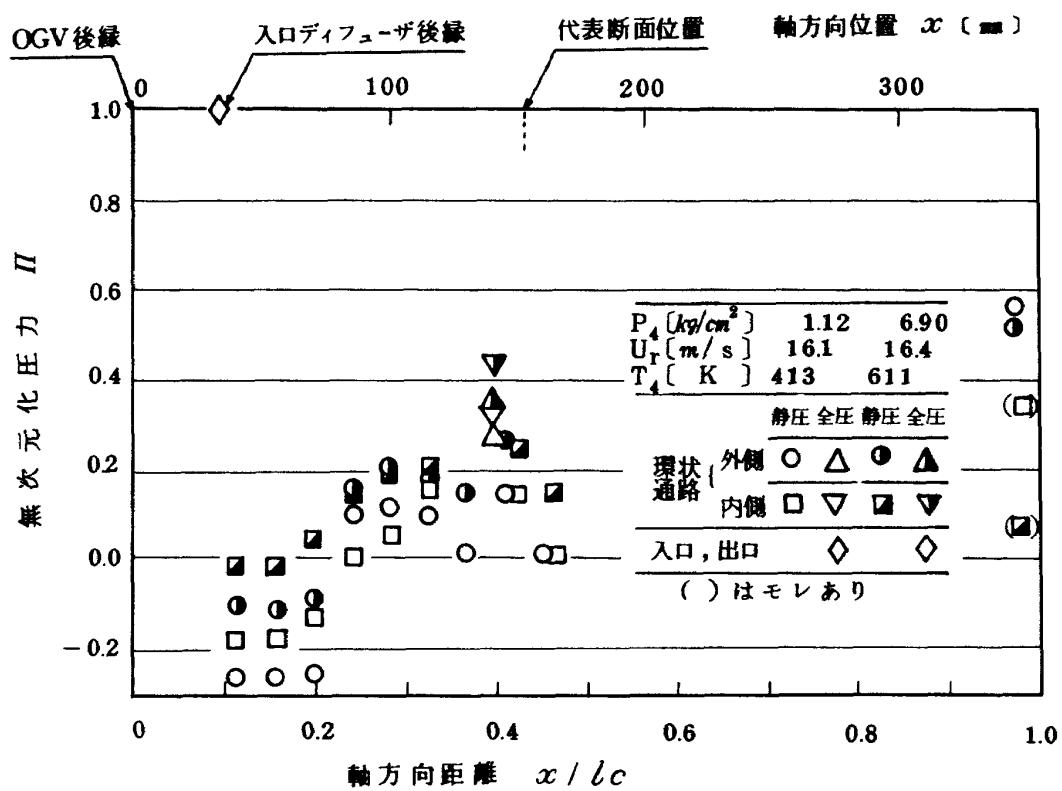


図 21 通風時のケーシング壁圧の分布および全圧測定値

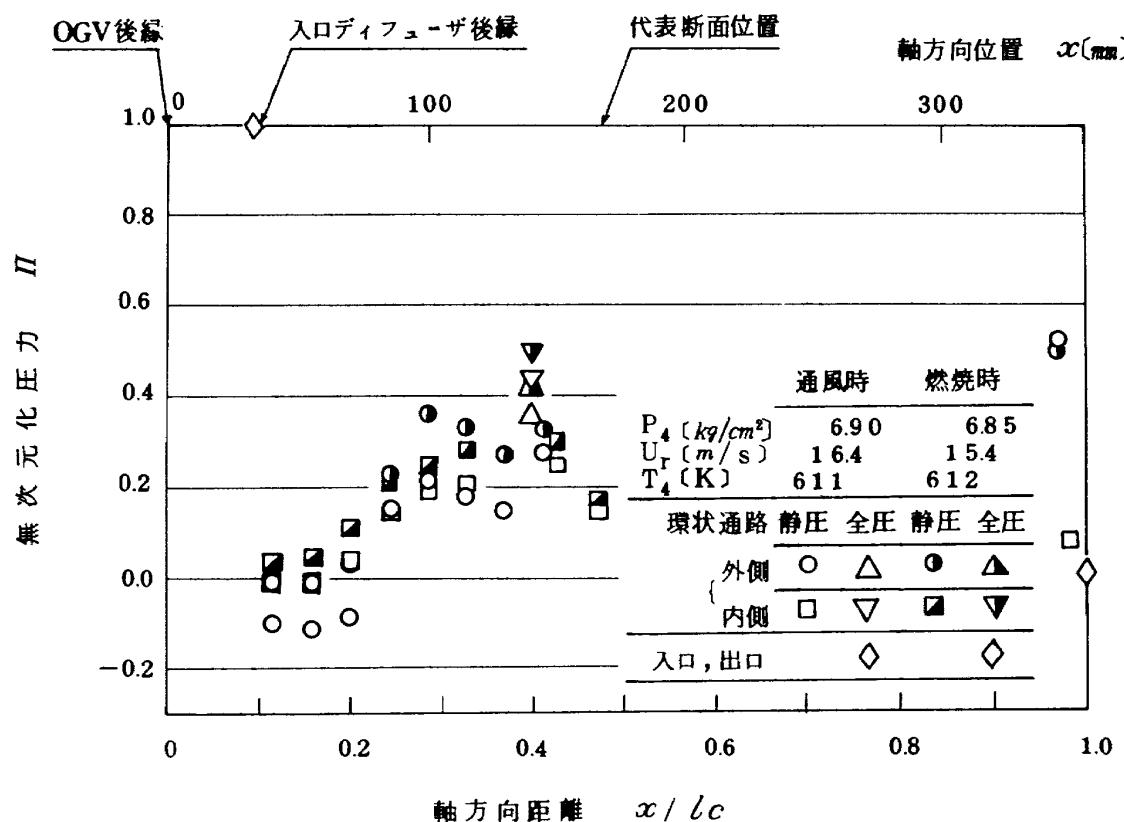


図 2.2 通風時と燃焼時との各部全圧・壁静圧値の比較

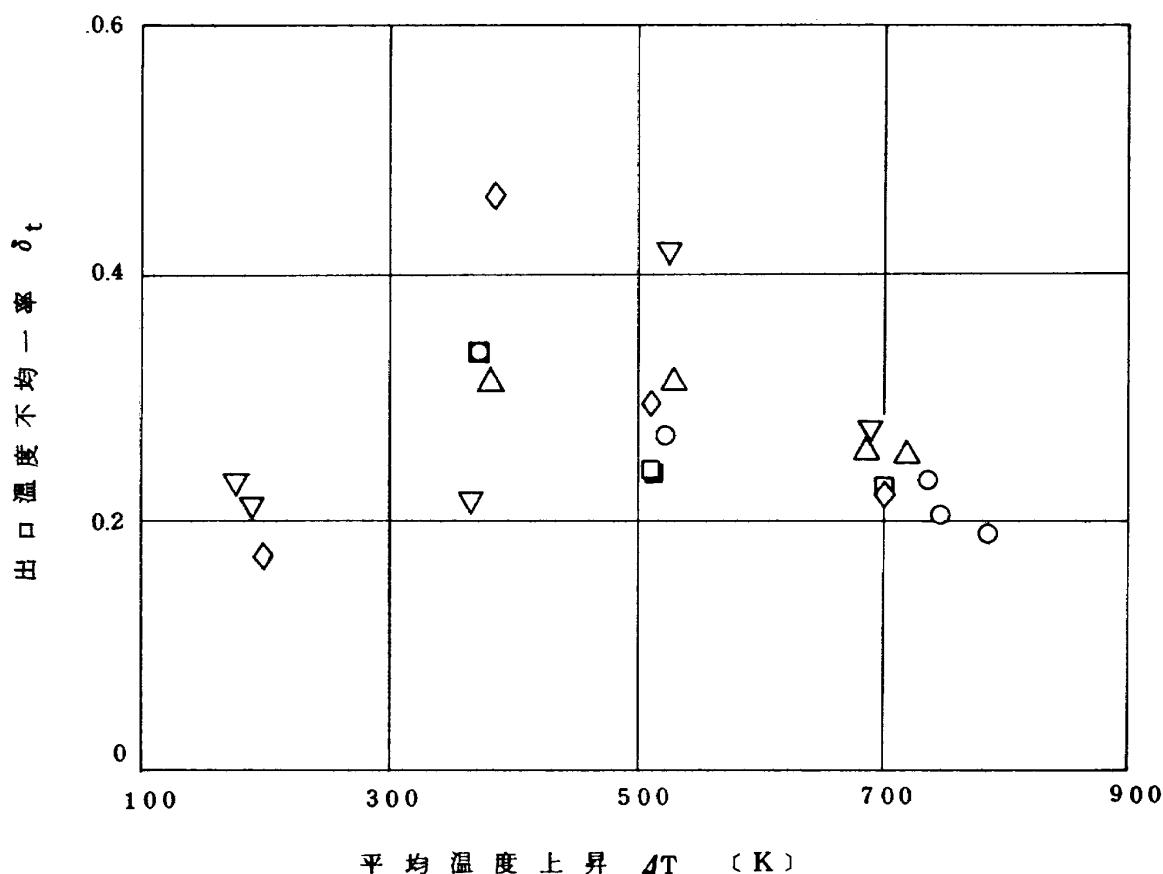


図 2.3 燃焼器温度上昇にたいする出口温度不均一率（記号は図 1.8 と同じ）

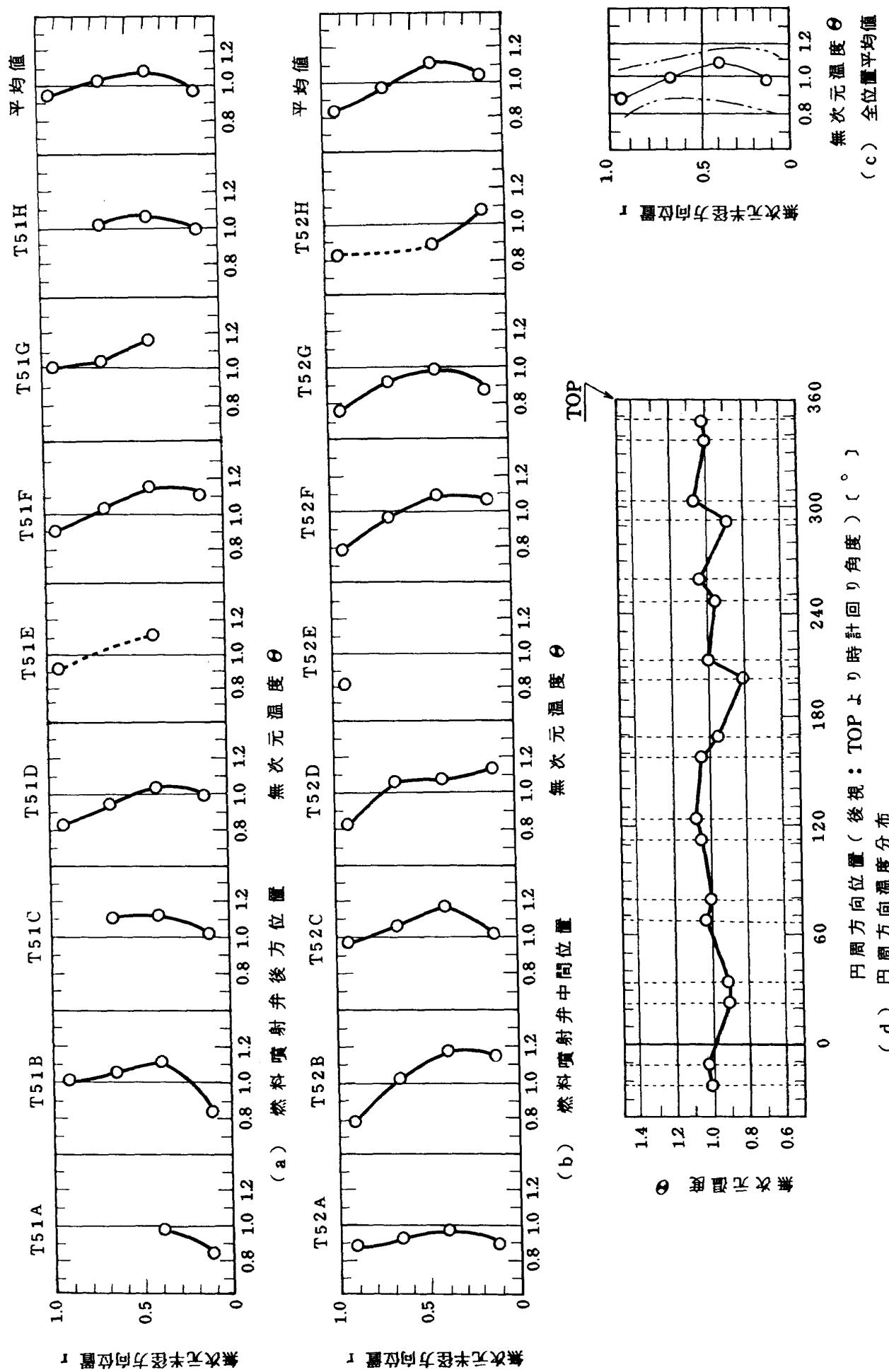


図 24 出口温度分布

から、もしこの計測が妥当であれば、要求を満足している。

更に、出口の各温度測定位置での温度分布を見てみると、図24のようである。同図の(a)は燃料噴射弁の後流にあたる位置の温度計、図11のT51A, T51B, ……, T51H, の指示値による無次元化温度分布である。同様に、図24の(b)は、噴射弁よりそのピッチの1/2だけ離れた、スワーラ中間位置後方での温度分布である。

図24の(c)は、(a), (b)全位置の平均温度分布を示す。同図中2点鎖線は、最大と最小の偏差を表わす。

また、図24の(d)は、各円周方向位置での平均値を、温度上昇値4Tによって無次元表示をしたものである。

燃焼試験時は、着火時から消火時にいたるまで、特に異常な燃焼音や振動の発生は無かった。

燃焼試験後のライナの加熱模様の観察結果は、次のごとくである。

燃料噴射弁は、噴口のある面に12個の直径1.2mmのシラウド空気噴出口があるが、この面の多くが青紫色を呈し、数100度に過熱した様子を残している。

スワーラは、図25のスケッチにも示す通り、スワー

ラボス部の内側ライナ側のみが青紫色となっていて、かついくつかのスワーラには、やわらかいカーボンの付着がある。これは、この付近のみに保炎していて、燃料、または空気遮断時にも最後まで火炎が残っていたことを推測させる。

ほとんどのスワーラにおいて、噴射弁の挿入されるスワーラリングがかなり過熱した痕跡がある。

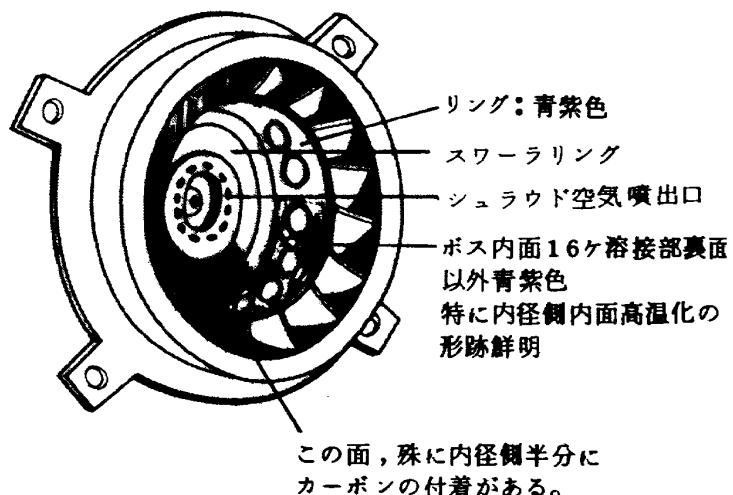


図25 ライナ60.03に用いた48φスワーラの燃焼試験後の観察状況

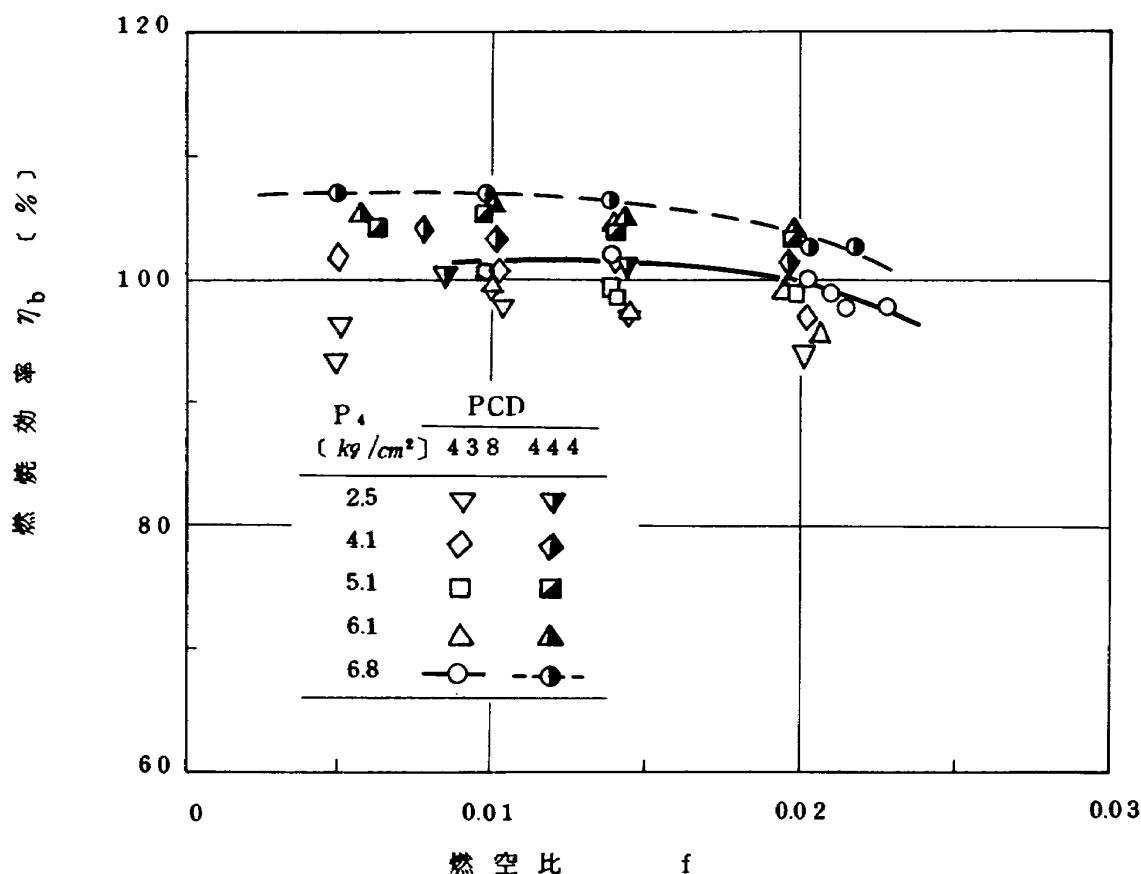


図26 48φスワーラを用いたライナ同士の燃焼効率比較

## 4.2. 供試燃焼器構成要素の影響

### 4.2.1 スワーラと PCD

図9に示す2種のスワーラと、噴射弁寸法によって限定される最大、最小のPCD、それぞれの組合せで、最も良いものを見出すため、表5に示す4種の実験を行った。

表5 相異なるPCDとスワーラの組合せを持つ燃焼器と燃焼実験データ番号

PCD [mm]	スワーラの種類	
	48φ	54φ
444	60.01 (780213)	60.02 (780214)
	60.03 (780225)	60.04 (780227)
438		

これらの比較で、最も顕著な差が出たのは、燃焼効率特性であるので、まず、それについて検討する。

図26は、48φスワーラを用いたときの、PCDの違いによる燃焼効率 $\eta_b$ の比較である。それらは互いに傾向は同じであるが、PCDが444mmの場合のほうが、概して数値高い値を示す。

図27は、54φスワーラを用いた場合で、このときは、PCDが438mmのときの方が高い $\eta_b$ を示す。

図26と27から、PCDが444mmのときと、438mmのとき、スワーラ径の違いによる差がどうかを比較したもののが、それぞれ、図28と29である。

これらの比較によると、特性の傾向やレベルに多少の差はあるものの、測定の精度、今後の改善にたいする潜在的性能向上の可能性などを考慮すると、表5のいずれの組合せでも十分な燃焼効率特性であると判断される。すなわち、燃焼器出口温度測定に基づく燃焼効率は、それら現用の限られた数の温度計では、設置位置によって士数多の値の差を容易に生ずること、抽気量確保のため、今後、圧力損失の増大をはからねばならないが、そのときは混合気の乱れの増加などにより燃焼効率の改善が容易な状況であること、および設計点では更に入口温度、圧力の上昇した状態であり燃焼性能の向上する条件であること、などがその理由である。

次に、出口温度、全計測値の標準偏差値 $\sigma_t$ を、上記表5の4種の燃焼器について比較してみる。

図30と31に、共通に48φスワーラを使用したライナ、それぞれ60.01と60.03の $\sigma_t$ を示す。それ

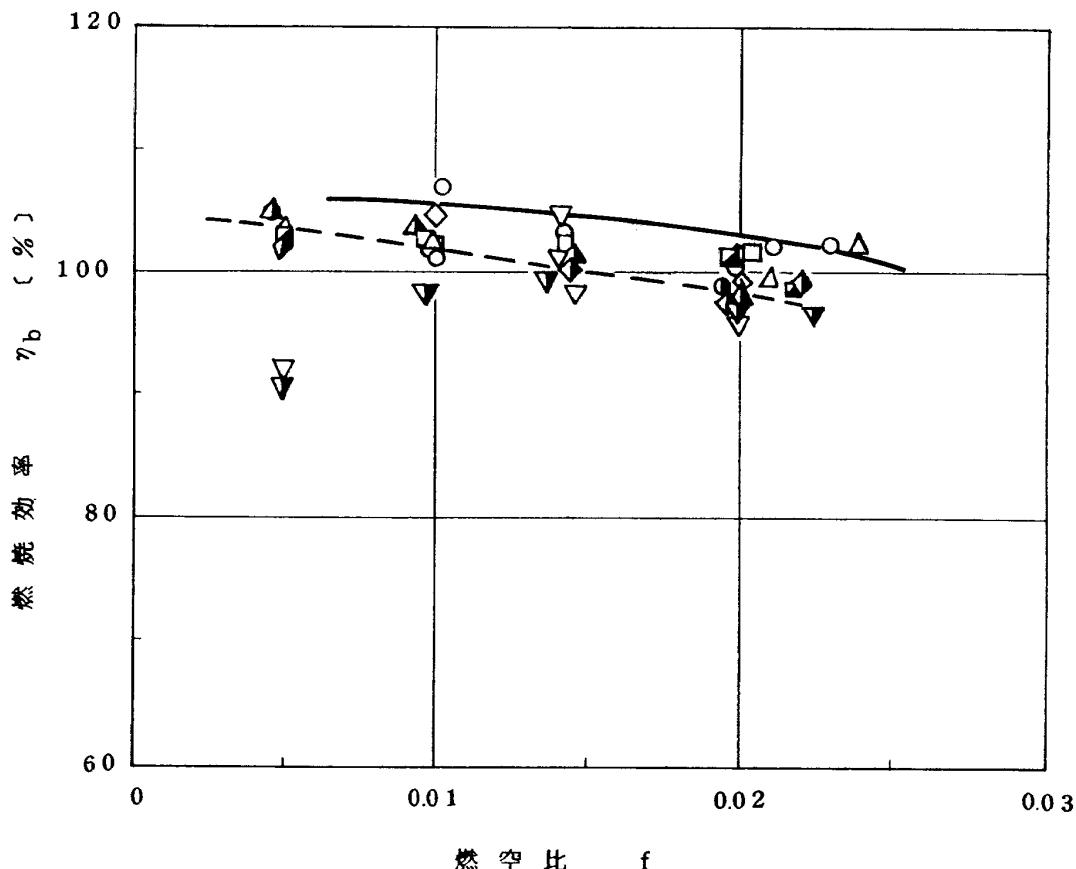


図27 54φスワーラを用いたライナ同士の燃焼効率比較（記号は図26と同一）

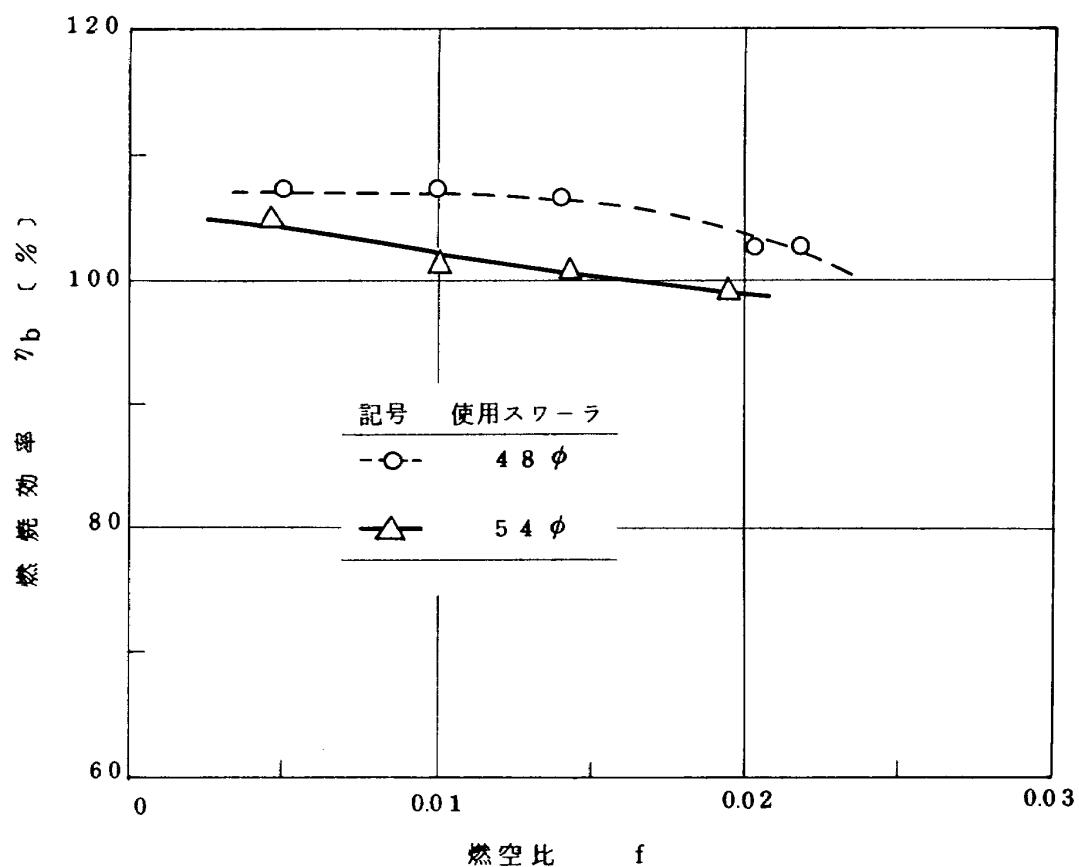


図 28 PCD = 444 mm のときのスワーラ径の違いによる燃焼効率特性の相違

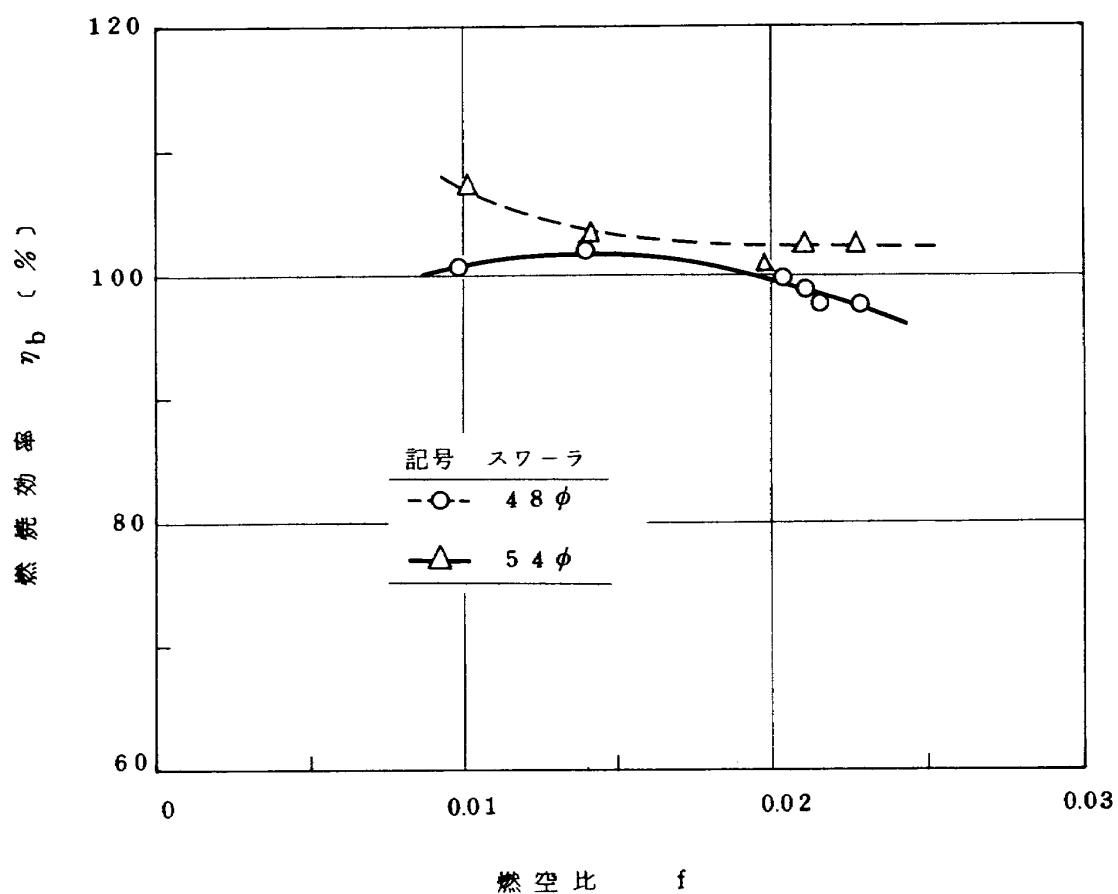


図 29 PCD = 438 mm のときのスワーラ径の違いによる燃焼効率の違い

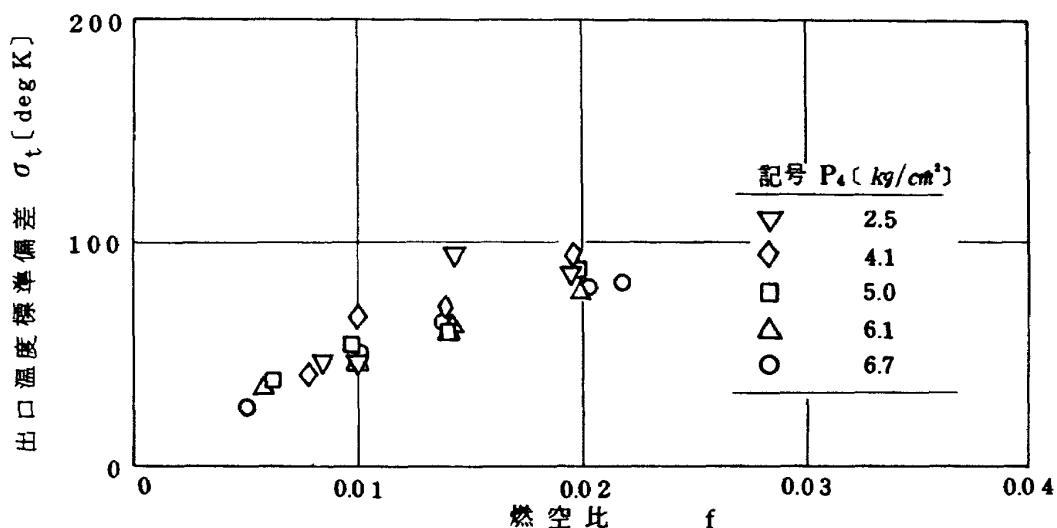


図 3.0 ライナ 6.0.1 の出口温度標準偏差

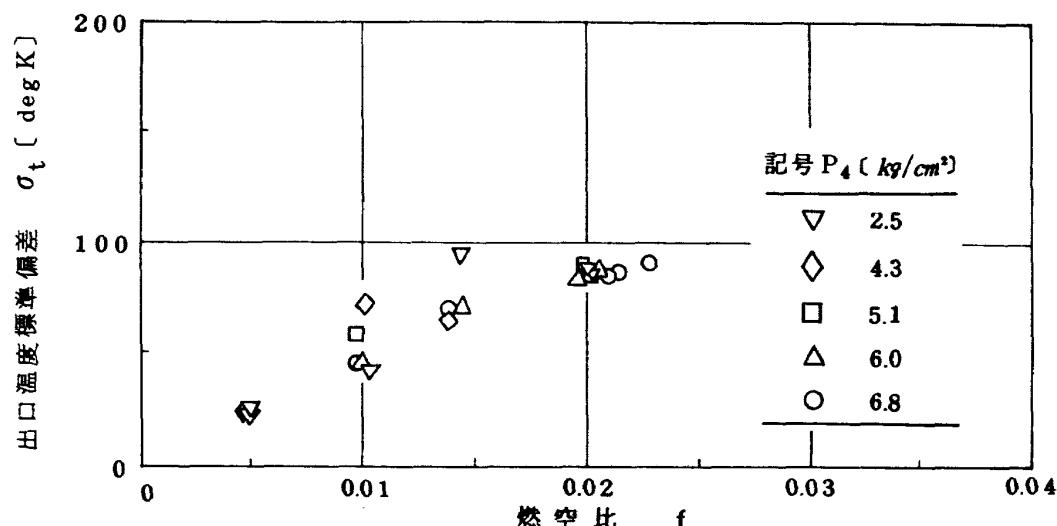


図 3.1 ライナ 6.0.3 の出口温度標準偏差値

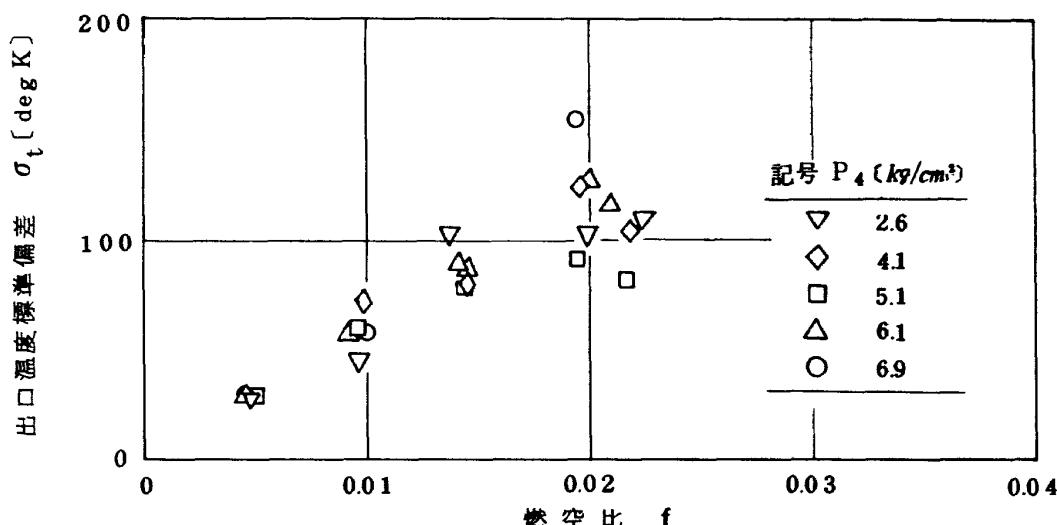


図 3.2 ライナ 6.0.2 の出口温度標準偏差値

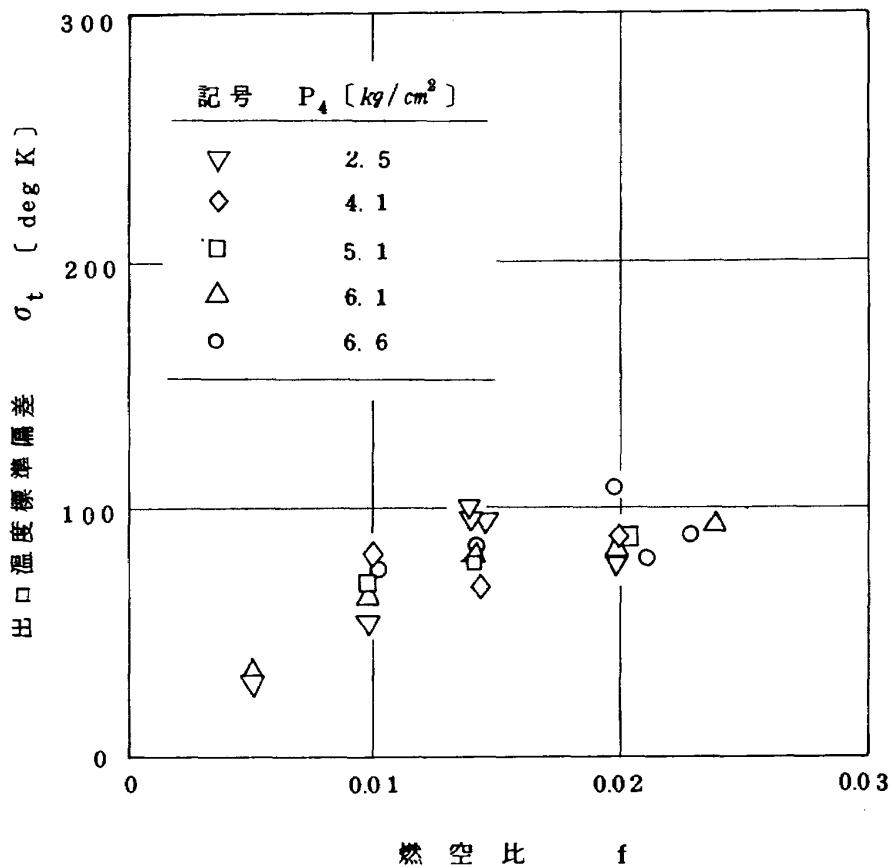


図 33 ライナ 60.04 の出口温度標準偏差値

らは、各供試条件にたいし全く良い一致、対応を示して  
いる。

54φスワーラを共通に使用したライナ、60.02と  
60.04の結果は、それぞれ図32と33に示す。これ  
らの結果によると、54φスワーラを使った場合は、 $f$   
の大きな範囲で  $\sigma_t$  の収束が悪く、ことに PCD が 444  
の 60.02 の場合には、高負荷になるに従って  $\sigma_t$   
は発散的傾向を示し、スワーラ近傍の燃焼状態の不安定  
さを暗示している。

燃焼試験後のライナの「焼け」の観察結果からも、ラ  
イナ 60.02 の場合には、遮熱板の加熱された程度が最  
も軽度で、ほとんど変色をおこしていない。

#### 4.2.2 燃焼器入口風速分布調整ピンの影響

ピンが無い場合、入口デフューザ部の風速分布は、半  
径方向にほとんど均一である。

ピンを設けた場合には、やや外径寄りにピークを持つ

風速分布形となる。

一例として、通風時に、OGV後縁相当位置より 53.8  
mm 下流の位置で計測した風速分布形を、図 34 に示す。  
同図で  $u = 0$  のたて軸位置が計測位置である。

次に、ピンの有無が、燃焼器特性値におよぼす影響を  
見てみる。

燃焼効率は、図 35 に比較する通り、ピンのある場合  
の方が燃空比の小さい領域でやや高いが、高負荷な場合  
には、ほとんど同じ値である。

本報告の試験結果の整理において、全圧損失係数  $\phi$  は、  
特に断わりのない限り、ピンの上流側で計測した全圧値  
 $P_4$  を基準としている。したがって  $\phi$  の値には、ピンの  
存在による全圧低下も含んでいる。

ここで、ピンの下流 80 mm の入口デフューザ後縁部で  
計測した全圧値（1点）を基準として  $\phi$  を求めると、図  
36 に示す通り、8 度程度小さな値となる。

しかし一方、初めからピンを取付けていないケーシン

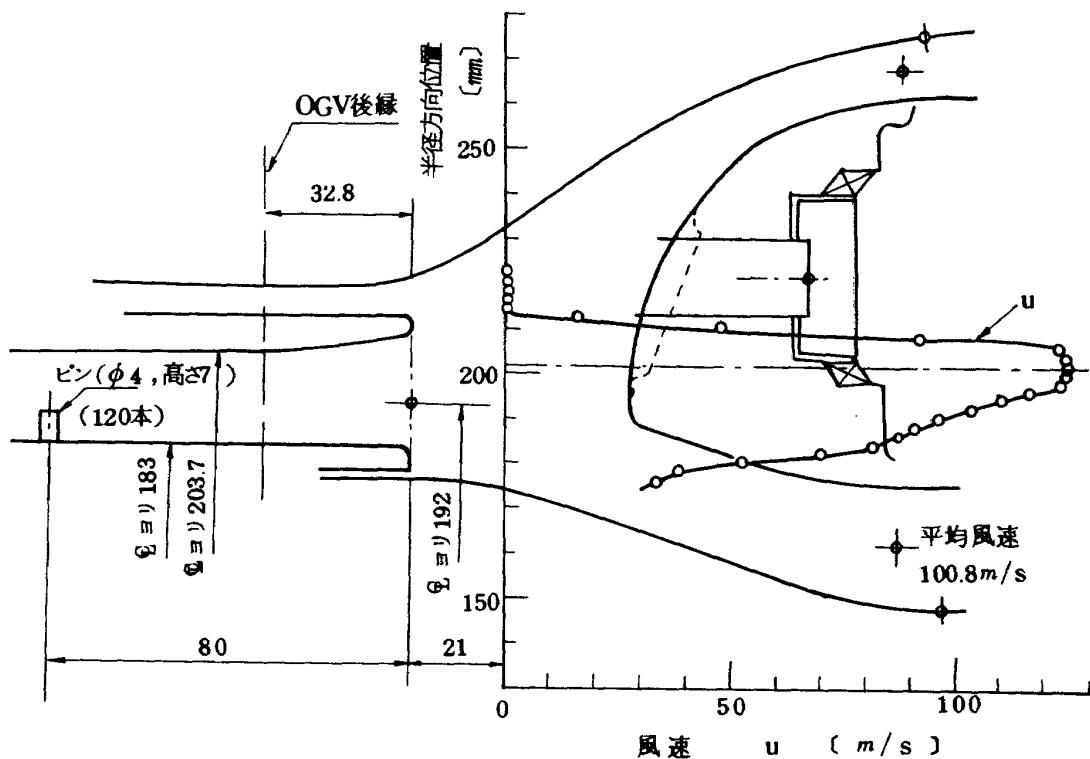


図3.4 鈍頭部風速分布(通風時)

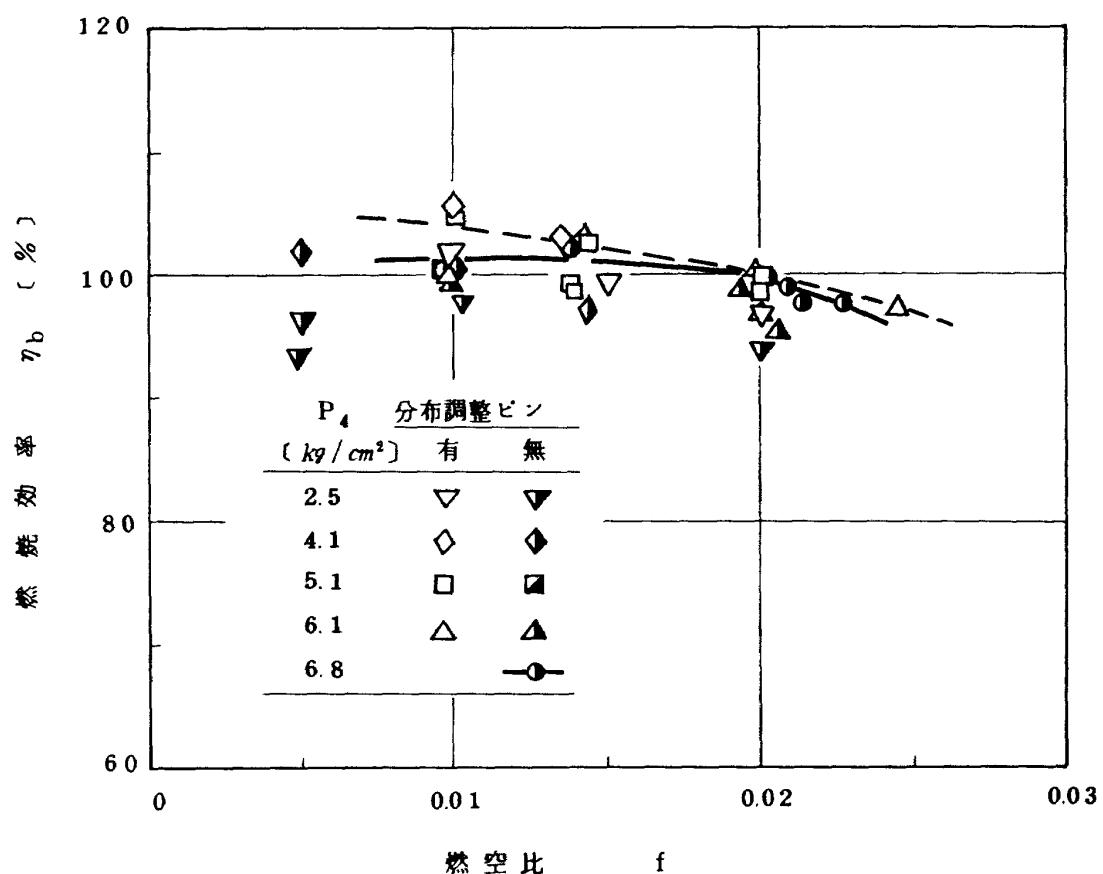


図3.5 ライナ6.0における入口風速分布の影響

グ ( C C 5 1 H ) を使用した場合には、図 3 7 のように、  
ピンのあるケーシングの場合と較べて、4 度の違い  
しかない。

この相違は、図 3 7 のピンを含まない場合の  $\phi$  を求め  
る際、ピンの下流の 1 点のみの全圧計測値にもとづいて  
計算したため、それが正しい代表値となっていないため  
生じたものであろう。なおこの後の試験で、この全圧計  
測管に洩れが発見された。この意味でもこの値はやや信  
頼性が欠ける。

ピンの上流で計測した全圧値  $P_4$  を基準とした  $\phi$  によ  
って、供試ライナ相互の  $\phi$  の比較を行うと、次のように  
ある。

4 個の供試ライナのうち  $\phi$  が最大であるのが 6 0 . 0 2 ,  
最小であるのが 6 0 . 0 1 で、6 0 . 0 3 と 6 0 . 0 4 は、そ  
れらの間の値をもつ。大きさの順で比較すると、

$$6 0 . 0 2 > 6 0 . 0 3 > 6 0 . 0 4 > 6 0 . 0 1$$

である。

6 0 . 0 2 と 6 0 . 0 1 の温度比にたいする  $\phi$  の値を、図  
3 8 に示す。

#### 4.2.3 抽気部圧力

今回使用したケーシングは、抽気ポートを備えていな  
いが、その付近の静圧が、供試条件、ピンの有無などに  
よってどのような影響を受けるかについてみてみる。

内、外抽気ポート位置での静圧を、それぞれ  $p_{41}$  、お  
よび  $p_{40}$  とすると、設計点での要求値は、

$$\frac{p_{41} - P_5}{P_4} \geq 0.024 \quad (1)$$

$$\frac{p_{40} - P_5}{P_4} \geq 0.024 \quad (2)$$

である。一方、設計点での圧力損失率は

$$\frac{P_4 - P_5}{P_4} = 0.04$$

と見積っている。なお、(1)、(2)は不等式であるが、抽氣  
の目的からすれば、限界の 0.024 に最も近い値が望ま  
しい。

抽気ポート部での静圧を、無次元値

$$\Pi_1 = \frac{p_{41} - P_5}{\Delta P}, \quad \Pi_0 = \frac{p_{40} - P_5}{\Delta P}$$

で表わし、(1)、(2)を等号式とみなすと、設計点での  $\Pi_1$  ,  
 $\Pi_0$  の値はいずれも 0.6 となる。

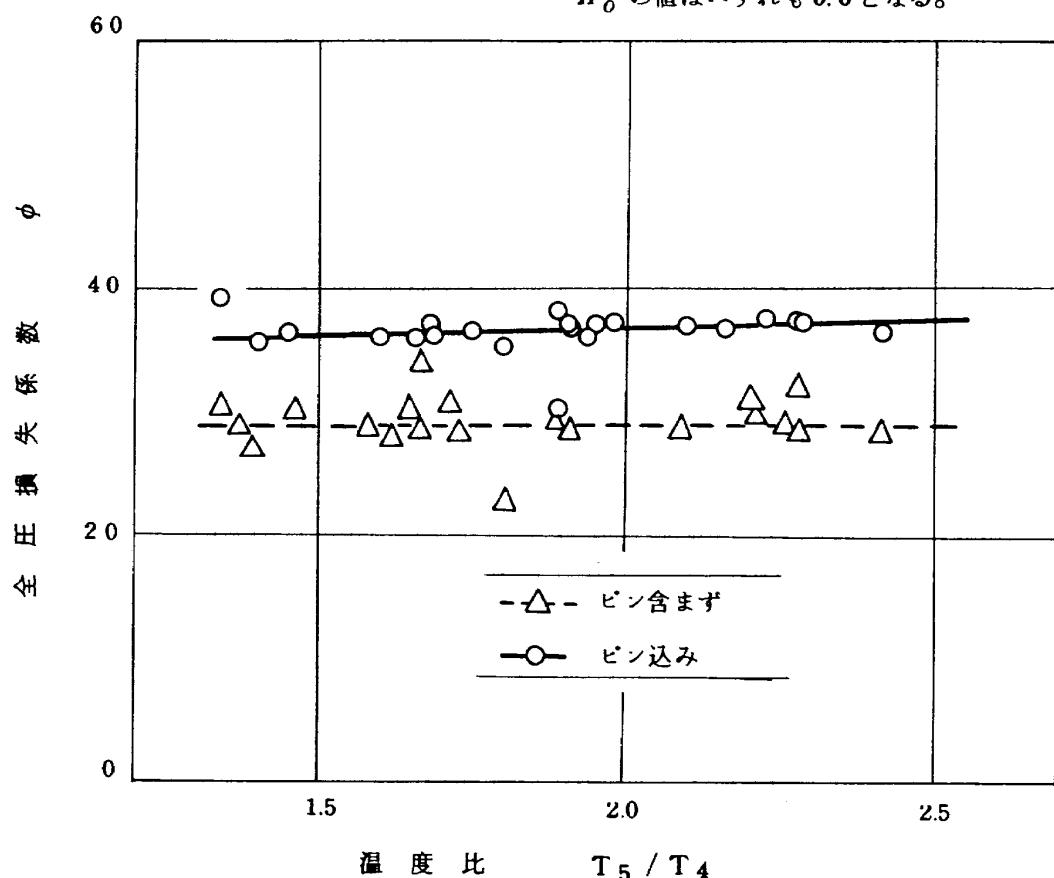


図 3 6 「ピン」を含めた全圧損失係数の増加 (ライナ 6 0 . 0 1 )

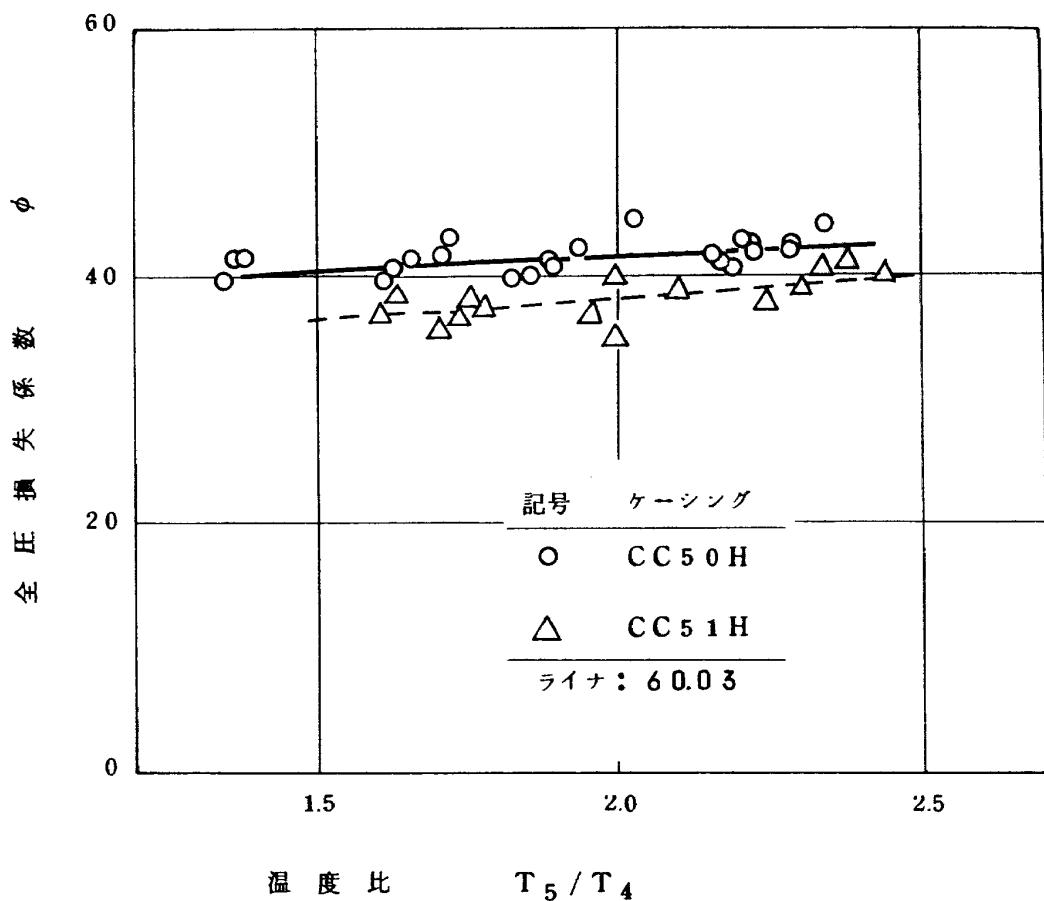


図37 ケーシングCC50HとCC51H(ピン無)との全圧損失係数計測値比較

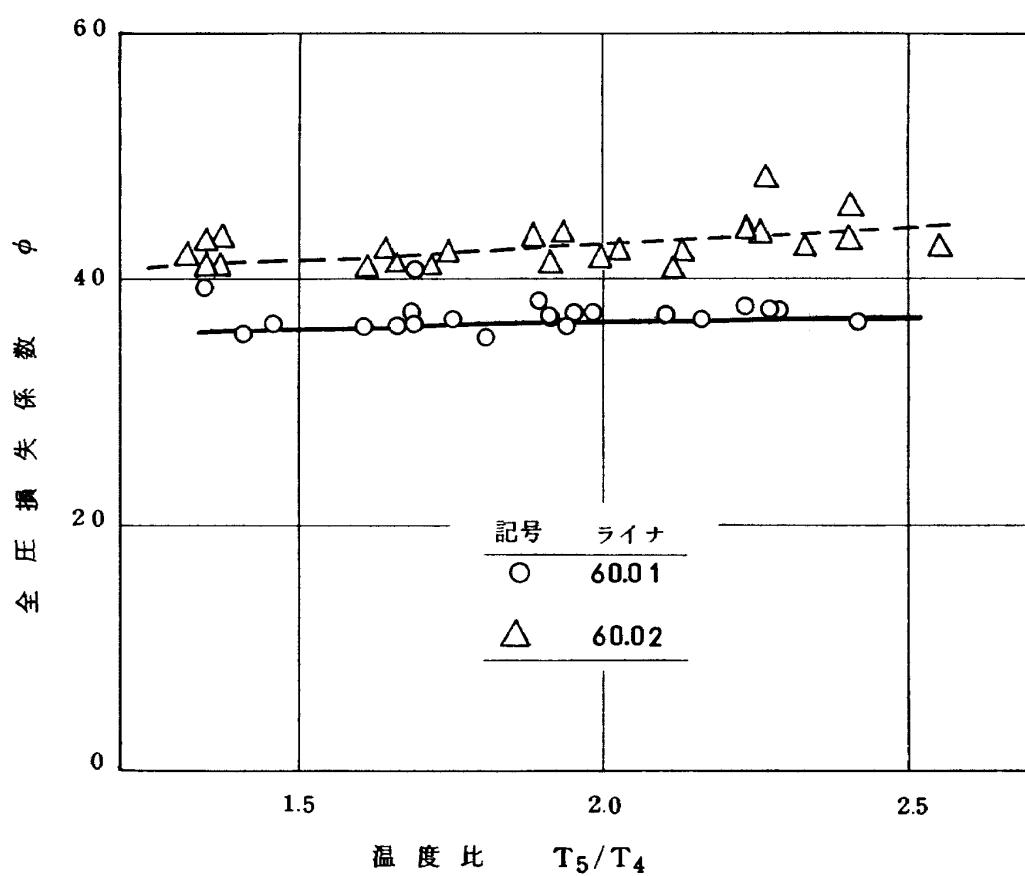


図38 供試燃焼器の全圧損失係数

燃焼器入口部にピンのある場合には、 $\Pi_1$ 、 $\Pi_0$  の実験値は、図 3 9 のようである。 $\Pi_1$  は、 $\Pi_0$  の値の約半分である。

しかるに、ピンのない場合には、図 4 0 に示す通り  $\Pi_1$  はほとんど  $\Pi_0$  と同等の値である。

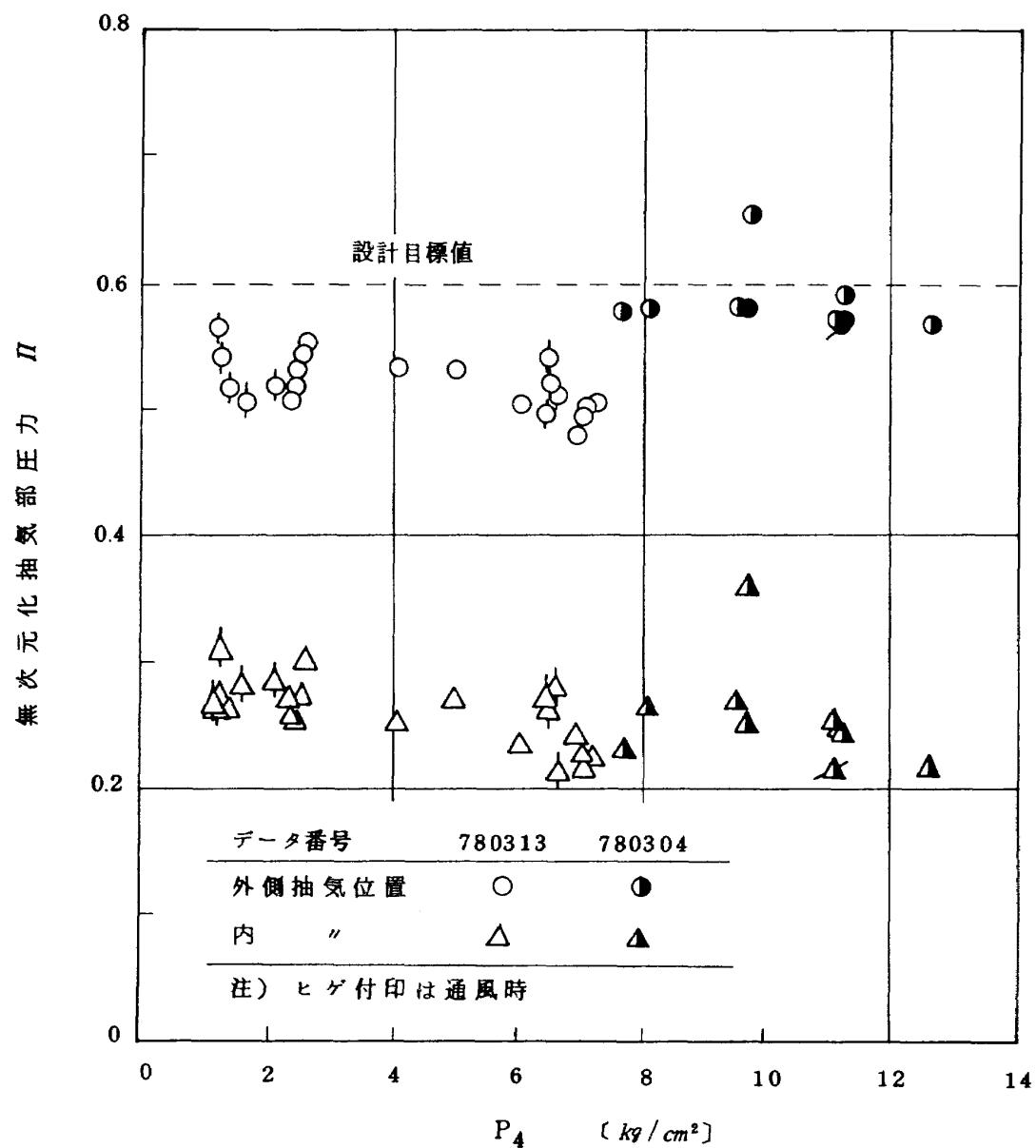


図 3 9 ピン付ケーシング使用時の抽気相当位置での静圧(ライナ 60.03)

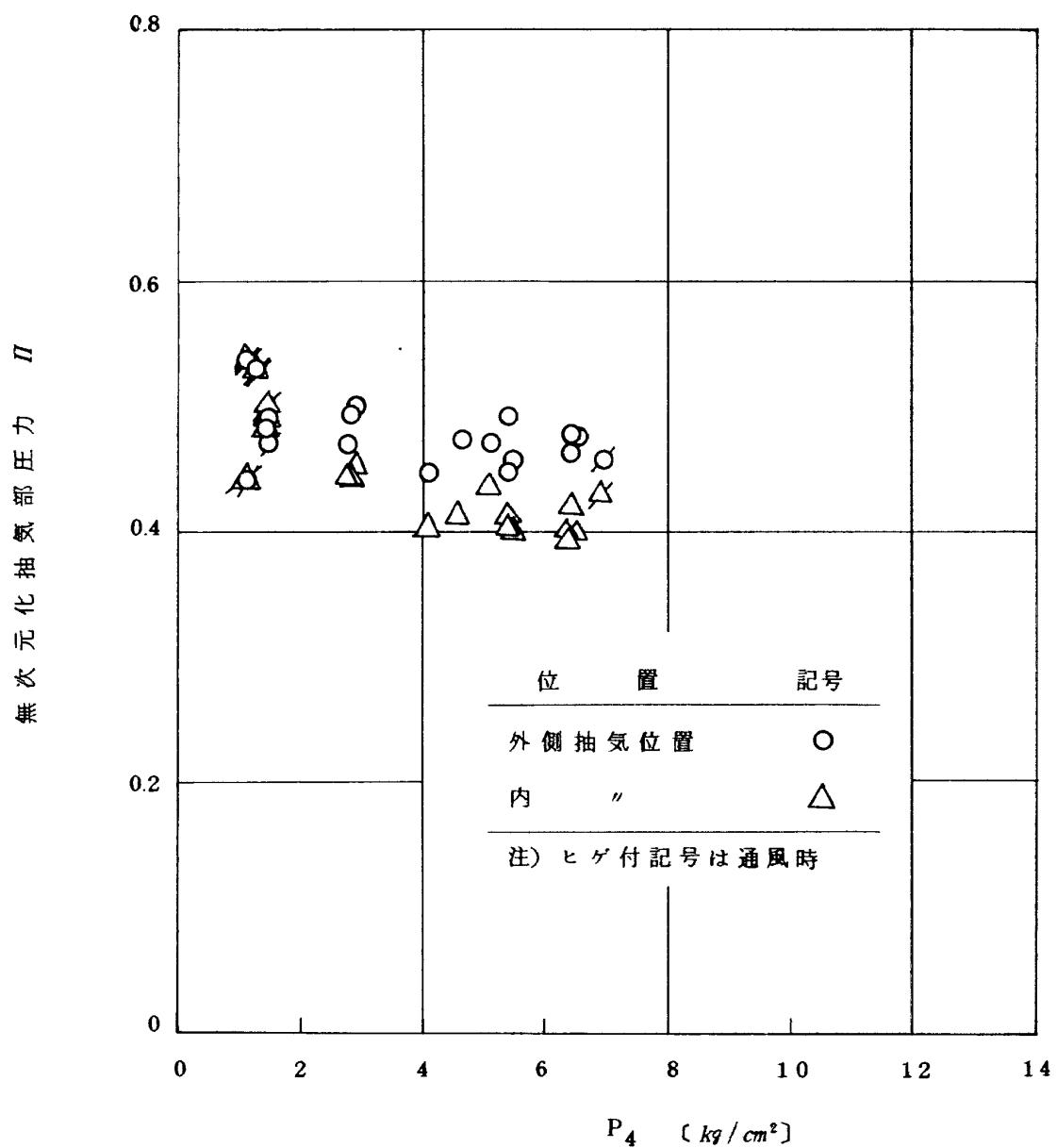


図 40 ピンなしケーシング( C C 51 H )使用時の抽気部相当位置での静圧(ライナ 6003)

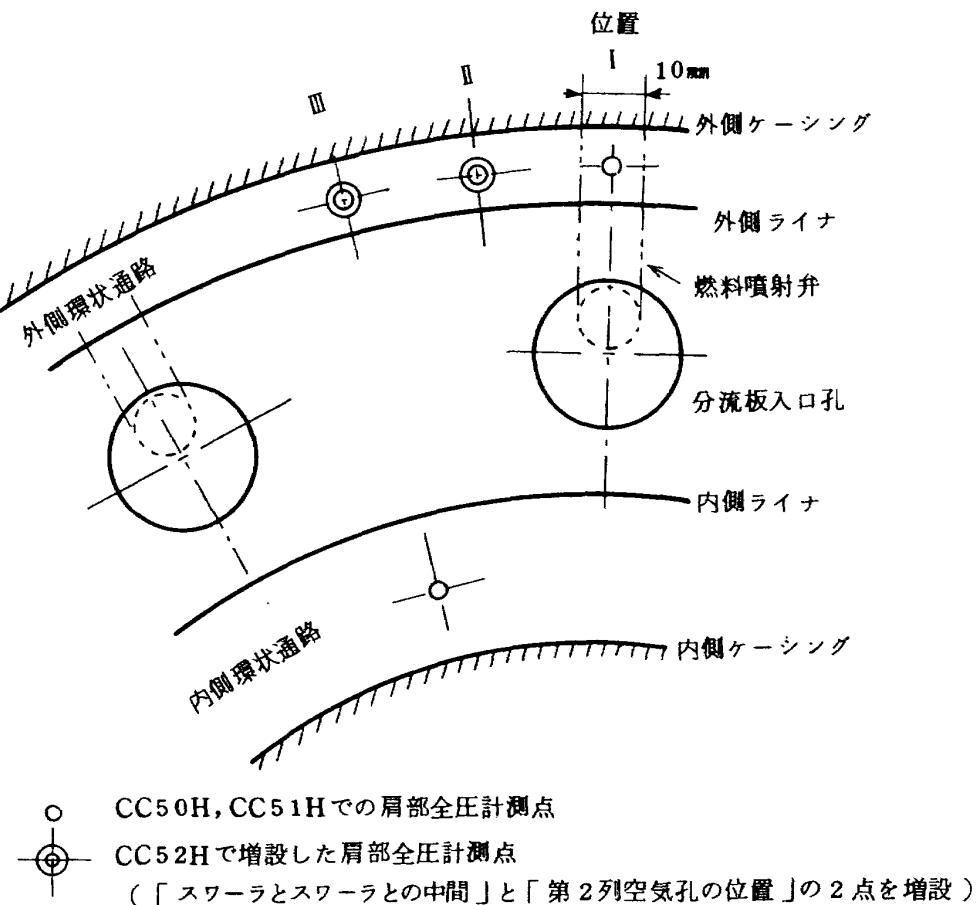


図 4 1 C C 5 2 H ケーシングの肩部全圧管設置位置

**4.2.4 鈍頭分流板によるデフューザ部での分流**  
 ライナ鈍頭部によって、ライナと内側、あるいは外側ケーシング間の環状通路にどのような割合で、デフューザ部空気流が分流されるかを検討するために、ケーシング C C 5 2 H で、肩部（2.2 参照）の全圧を円周方向外側3点、内側1点を計測した。

図 4 1 にそれらの計測位置を示す。半径方向には、図 3 4 に示すように通路中心位置に設置してある。

内径側環状通路肩部空気流量 ( $w_a$ )<sub>i</sub> に対する外径

側流量 ( $w_a$ )<sub>o</sub> の値を、全圧管位置と対応させ、模式的に示すと、図 4 2 のようである。

同図によると、燃料噴射弁の下流に相当する部分 I は、その噴射弁の送油管部（巾 10 mm）のウェイク（後流渦流れ）の中にあると考えられる。そのウェイクの幅は不明であるが、仮に表 4 のように 10 ~ 40 mm の値と仮定しても、いずれの場合でも ( $w_a$ )<sub>o</sub> は ( $w_a$ )<sub>i</sub> より 20 ~ 40 %ほど多い値となっている。ただし、厳密には、各通路部分での半径方向風速分布、流れ方向にたいする全圧管の向きなどを考慮せねばならないであろう。

表 4 ウェイク幅と肩部流量比

ウェイク幅 [mm]	$(w_a)_o / (w_a)_i$
10	1.43
26.3*	1.31
40	1.20

\* 図 4 2 の状態

#### 4.2.5 ライナの焼け具合

以下に最も初期の燃焼試験（780213）直後に観察したライナの様子を記す。

図 4 3 には、内側ライナの焼け具合を、写真で示す。一般に内側ライナは、燃料噴射弁の軸から、主軸まわりに 5.6°（空気孔ピッチにして 1/2）だけ、反時計まわ

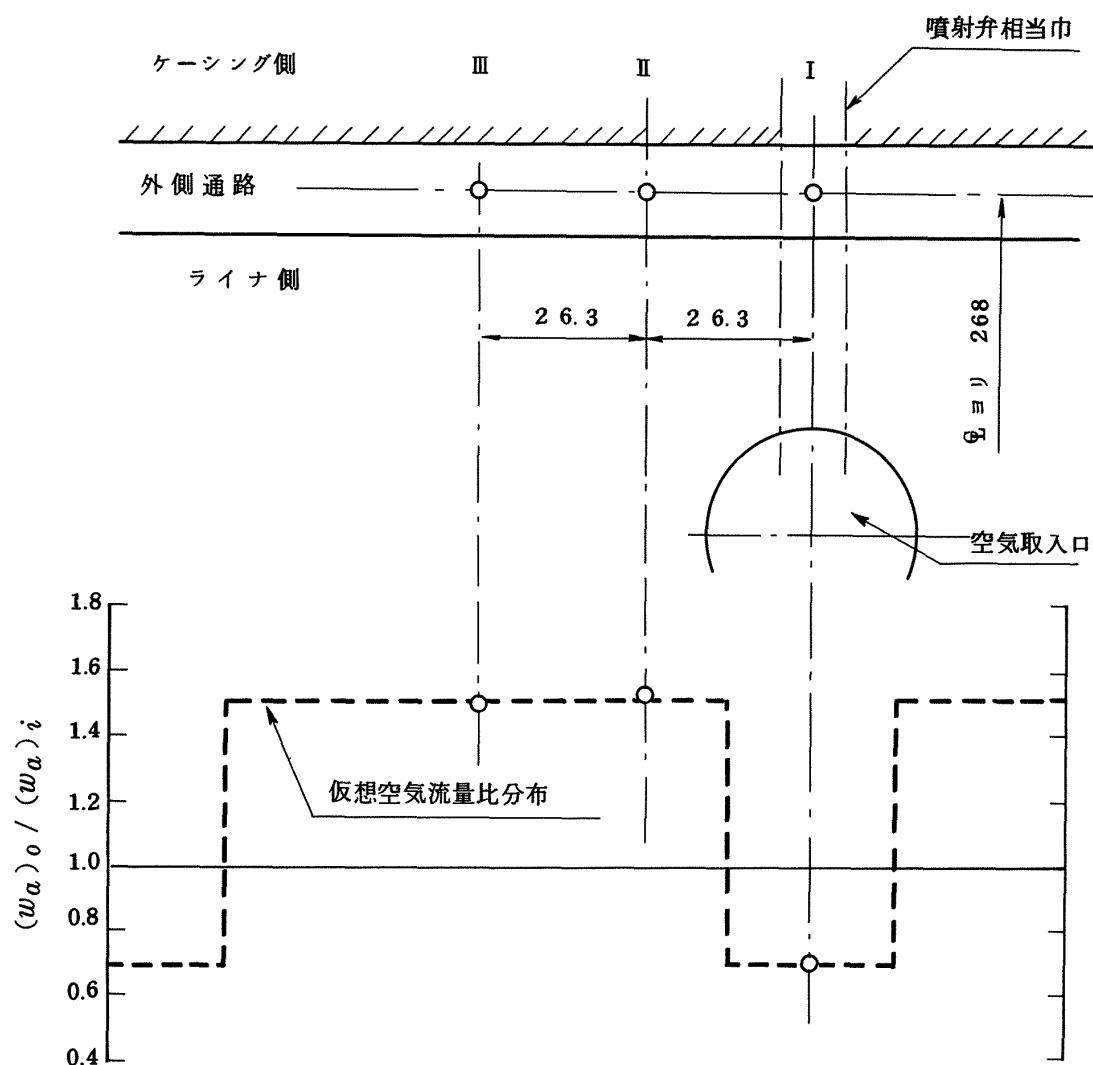


図 4-2 外側環状通路における円周方向全圧計測位置と仮想流量分布

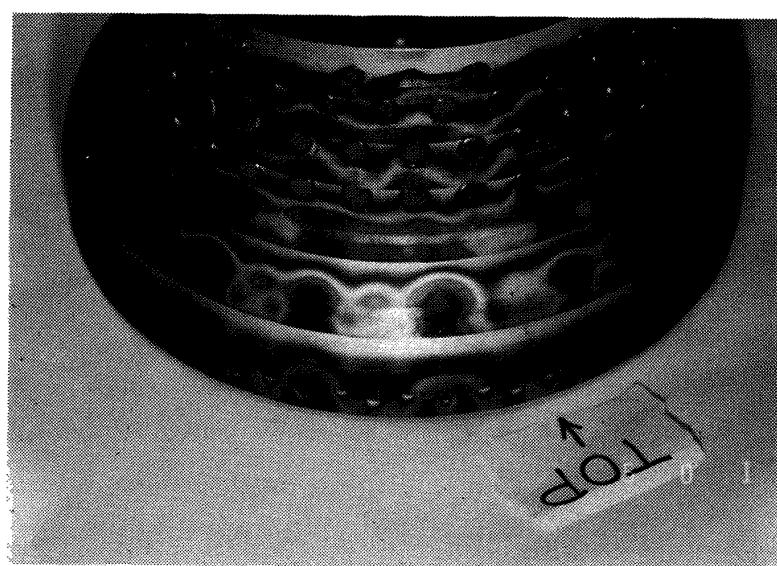


図 4-3 内側ライナの内面(燃焼室側)



図 4-4 外側ライナ内面、および遮熱板近傍の焼け具合

りに偏寄った線に沿って、膜冷却構造の後端部が焼けている。

外側ライナは、図 4-4 に示す通り、かなり均一に焼けている。点火栓の後部は、かなり高温となった模様である。直径 13 mm の第 1 列空気孔列（図 1 の⑧）のある板の膜冷却部後端も、噴射弁の下流部などで、高温となった形跡である。

遮熱板は、従来の燃焼器のものと比較して、特に高温となった様子はない。しかし、スワーラと内径側ライナの間に相当する部分は、他の部分より強く過熱した模様である。

## 5. 燃焼器特性の評価と諸構成要素の影響

以下に、試験結果を検討し、最も特性のすぐれた燃焼器、あるいは要素の組合せについて評価、判断を行う。

また、ピンなど、各構成要素の及ぼす影響について考察する。

### 5.1 供試燃焼器特性

燃焼効率の点では、今回の供試燃焼器すべてが、一応、定常的作動に必要な全空燃比範囲にわたって十分高い値を示している。そのうちで、どちらかといえば、ライナ 6.0.0.1 や、6.0.0.4 のように、 $\eta_t$  が過度に高いものは、出口温度計側部のみ高温であって、その他の部分に低温部の存在を意味し、出口温度分布均一性の意味から言って好ましくない。

圧力損失  $\phi$  は、既報に述べた設計方針により、最終目標値より低目となるよう、空気孔などライナ開口部面積を大き目に見積っている。したがって、今回の実験で得た  $\phi = 3.5 \sim 4.5$ （ピンを含む値）は、この段階とし

ては、満足すべき値である。

燃焼器後部、抽気予定部付近の静圧は、 $\phi$  の値が未だ予定通り高くなっていないため、十分な値となっていない。ここで注意すべきことは、燃焼器入口の風速が、外径側に高い分布であるとき、内側抽気部の静圧は、燃焼器全圧損失を基準として、50%程度、外径側の値より小さくなる。

出口半径方向温度分布は、要求の形と正反対に、ターピン翼根側に最高値を持つ形であった。この形状については、計測位置がライナの後端より 50 mm 以上も下流であるため、正確な評価はつけていく。このたびの半径方向温度分布データが、あらゆる供試燃焼器、供試条件について、ほぼ同様の傾向を示したことは、ケーシングに比して短いライナを後部で保持するための「ライナ押え」と、出口温度計測部にいたる温度計測ダクト「内張り」の壁面冷却構造が、その分布形に大きな影響を与えている可能性が考えられる。

したがって、このライナにおける半径方向出口温度分布の詳細な検討は、次の段階の試験にゆだねる。

温度不均一率  $\delta_t$  も、上記の理由から、正しい評価を与え得る値ではないが、温度上昇 700 K 以上で  $\delta_t \sim 0.2$  以下の値に漸近してゆく傾向のあるのは火炎の伸びが少なく、温度分布が均一化し易い可能性を示唆し、期待の持てる傾向である。

次に、ライナの鈍頭分流板近傍における空気量分流について検討する。

設計頭初のライナへ流入する空気量の見積りを、図 4-5(a) に示す。

今回の試験では、抽気をしていないので、供給空気量全量が抽気ポート以外に同比率にて流入すると考えると、

同図(b)に示す流入配分となる。この場合、「肩部」で内外環状通路を通る空気量の比をとると、 $k = 1.02$ となる。

ところが、4.2.3で実測した結果によると、外側ライナからは、内側ライナへ入る空気量の少なくとも30%増し程度の空気量が流入している。

今回使用した分流板は、形状からしてまず供給空気が、内側ライナ側へ分流し、しかる後、残りの空気量が、スワーラ等へ分流板開口部を流入する量と、外側ライナより流入する量とに分れると考える。

もし、内側ライナ側へ分流する割合が、図45(b)の36.6%であって、外側ライナ流入量、すなわちこれが「肩部」計測量であるが、その30%増しの値、47.6%であるならば、スワーラ等へ流入する空気量は、残りの15.8%にすぎない。

スワーラ流入空気量が、実際少なかったであろうと考えられる根拠が、次のようにいくつかある。

(1) スワーラの開口面積の違いが、 $\phi$ の値に、ほとんど影響をおよぼしていない。

(2) 空気が冷却作用をする筈のスワーラ羽根や燃料噴

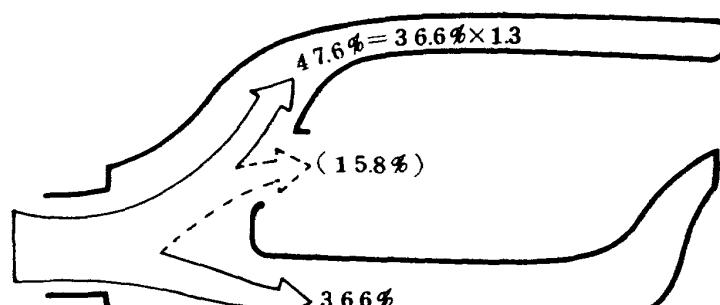
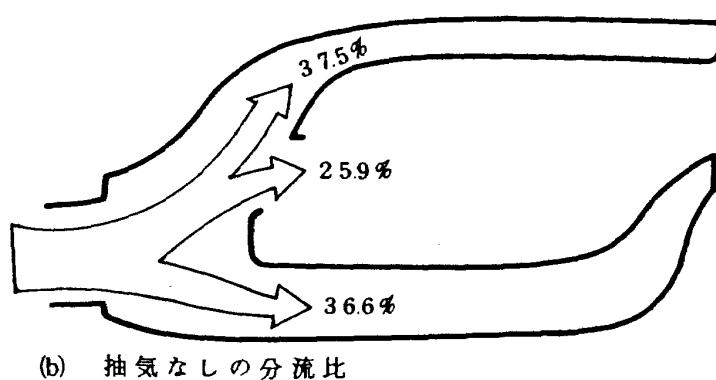
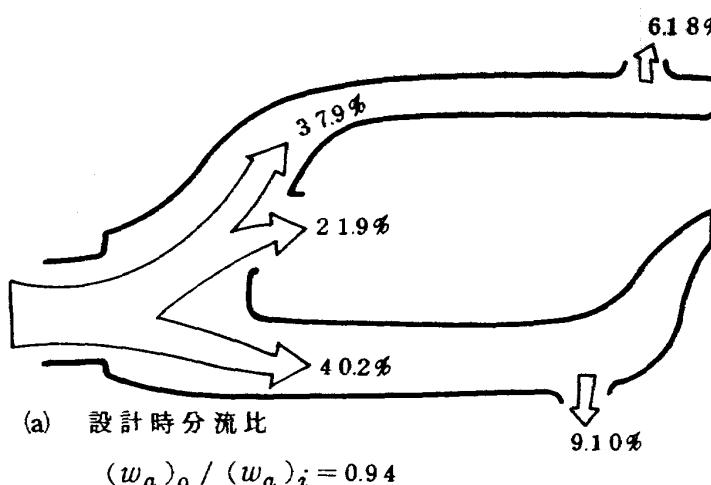


図45 ライナ各部へ流入する空気量配分

- 射弁の面の一部が、かなり過熱した形跡がある。
- (3) 燃焼効率特性が、燃空比の大きい側で劣化の傾向を示すのは、一次燃焼領域が過濃となっている場合がある。<sup>6)</sup>
- (4) スワーラ空気量が少ないと、スワーラ形状の異なる影響がでない。<sup>7)</sup>

そのほか、出口温度分布が、スワーラや P C D の違いにかかわらず常に、外径側が低かったのは、外側ライナからの空気流入量が常に支配的であったことを推測させる。

## 5.2 燃焼器構造の評価

内側ライナ切離し構造については、今回の試験では全く問題が生じなかった。ただし、遮熱板近傍の保炎については、今後更に改善が必要と思われる所以、そのとき耐熱的には、より厳しい条件がこの付近に生ずる可能性はある。

ライナを内、外切離したことは、ライナ燃焼室内面側の「焼け」、「カーボン付着」等の観察に非常に有利であった。

噴射弁軸を主軸と平行にした構造は、結果として、スワーラ流入流れを偏らせ、保炎性を損なったと判断される。図 10、および 4.1 などに、明らかのように、分流板空気取入口にたいして、噴射弁挿入位置が全く偏心している。そのため、スワーラへ流入する空気は、三日月形の開口部から鈍頭分流板内部へ入り、スワーラ周上で余り均等化されることなく燃焼室へ流出すると考えられる。なお、48φスワーラの場合でも、空気通路面積は、上記、三日月形開口部面積より広い。

燃焼室内一次燃焼領域を広くした効果は、今回の実験では、顕著ではない。それは、ライナ長さが、その分短かくできたという形で現われる筈であるが、今回の場合の出口温度計が、ライナ出口より数 10 mm 下流にあるため明確には評価できない。

上記の構造をとった結果、燃焼器デューザ部では段付デューザと、「魚頭形」分流板の採用となった。前者は、特に大きな圧力損失をきたすこともなく、内外デューザ壁面静圧分布形から判断しても満足のゆく性能と評価できる。「魚頭形」分流板の性能としては、前節に記したように、分流板空気取入口から流入する空気量が少なかつた可能性がある他は、特に不都合な特性ではない。今後の問題としては、スワーラ流入空気量の適正化と、偏よりを最小とした分流板形状とその空気取入口形状、向きなどを検討してゆく必要がある。

ライナ空気孔は、今後、大巾に変える必要がある。今

回、一応の燃焼性能は得られたものの、全圧損失係数は、目標の 6.3 よりはるかに小さい。そのためには、全体的に、大巾な空気孔面積の縮小と、配置の改善によって、一次燃焼領域の性能向上をはかる必要がある。ことに後者により、ライナ後部まで伸びた形跡のあるスワーラ下流部火炎の短縮化がはかられる。

## 5.3 P C D とスワーラの選択

今回の試験で、F J R 7 1 0 / 6 0 0 用燃焼器に採用する P C D とスワーラの選択を行うことがひとつの課題であった。

前述までの結果から、P C D としては 438 mm, スワーラは 48φ のものを選んだ。その主要な理由を、下記にまとめてみる。

P C D = 438 mm の方が、分流板空気取入口における空気流入のかたよりが比較的緩和される。

表 5 の組合せの実験では、 $\eta_{th}$  が最も 100% に近い（この場合、過度に 100% を凌駕していない意味）ものは P C D = 444 mm, 54φスワーラ、又は P C D = 438 mm, 48φスワーラである。しかし、54φスワーラの出口温度標準偏差のはらつきは異常に大きく、保炎の不安定さを示唆する。

したがって、全圧損失係数の増加、出口温度分布の調整、抽気の影響など、未解決の問題はひかえているものの、上記のように選択した P C D、スワーラの組合せで今後の問題にあたることにする。

## 6 まとめ

既報で基本設計を行った燃焼器 C C 6 0 H の第一次燃焼試験として、やや後部形状の異なるケーシングを使った、呼称 C C 5 0 H の燃焼試験を行った。その結果、供試燃焼器は、諸要求性能を満足、あるいは、満足させ得る可能性を持つことが分った。

得られた結果の主なものは、

- 1) 着火性能は良好である。
- 2) 着火、消炎など過渡時に不安定現象は起きない。
- 3) 通常の作動燃空比範囲で、安定した燃焼を行い十分に高い燃焼効率を発揮する。
- 4) 圧力損失係数は、予想通り十分に低く、 $\phi \approx 4.0$  程度である。
- 5) 出口温度不均一率  $\delta_T$  は  $\Delta T = 800 K$  で 0.2 以下に収束する。ただし、温度計測位置は、ライナ後端より 70 mm 程度の位置である。
- 6) 出口半径方向温度分布は、やや翼根側にピークを持つ。

- 7) 保炎がスワーラーの一部で行われ、かなり偏よって  
いる形跡がある。またスワーラ火炎が、比較的ライ  
ナ後部まで伸びている様子がライナの「焼け」によ  
り推測される。
- 8) 燃焼器出口部にたいする抽気部の静圧は、未だ十  
分高くない。内径測抽気部静圧は、燃焼器入口風速  
分布の影響を大きく受ける。
- 9) 内側ライナ分離構造部は、燃焼試験によって何の  
変形も起していない。
- 10) ライナ、遮熱板などは、焼損を起すほどの過熱は  
蒙っていない。
- 今後の段階では、次の改善が必要である。
- 1) 出口半径方向温度分布を、所要の形とする。
  - 2) 鈍頭分流板の形状、ことに空気取入口からスワー  
ラへの流入空気が均等に入るようにして、保炎の偏よ  
りをなおすこと。
  - 3) 抽気の効果を知り、抽気部での静圧を、ライナ出  
口全圧にたいし、所要の値をとること。
  - 4) 排出ガスを測定し、排出規制目標値を達成するこ  
と。

なお、今回、参考のため行った排煙計測には、航空機  
公害研究グループの斎藤 隆、山田秀志両技官の協力が  
あつた。

### 使 用 記 号

$f$	燃空比
$L_b$	燃焼器負荷率, $\text{kcal}/\text{m}^3 \text{hr atm}$
$l_c$	燃焼器全長(OGV後縁部からライナ出口ま で), m
$n$	空燃比( $1/f$ )
OGV	圧縮機出口ガイドペーン、又はその相当位置
PCD	燃料噴射弁ピッチ円直径, mm
$P_{41}$	内側抽気孔相当位置での全圧 $\text{kg}/\text{cm}^2$
$P_{42}$	外側抽気孔相当位置での全圧, $\text{kg}/\text{cm}^2$
$P_{fM}$	主燃料噴射圧, $\text{kg}/\text{cm}^2 G^\dagger$
$P_{fp}$	プライマリ燃料噴射圧, $\text{kg}/\text{cm}^2 G^\dagger$
$P$	全圧, $\text{kg}/\text{cm}^2$
$p$	静圧, $\text{kg}/\text{cm}^2$
$r$	無次元半径方向距離
$T$	温度, K
$T_4$	燃焼器入口温度, K

† 圧力は通常、絶対圧で示し、ゲージ圧のときに限っ  
てGを付記する。

$T_5$  燃焼器出口平均温度, K

$u$  風速, m/s

$U_r$  代表断面風速, m/s

$w_a$  供給空気重量流量, kg/s

$w_f$  供給燃料重量流量, kg/s

$x$  燃焼器主軸方向距離, m

### ギリシャ文字

$\Delta P$  燃焼器入口-出口全圧差,  $\text{kg}/\text{cm}^2$

$\Delta T$  燃焼器平均温度上昇,  $T_5 - T_4$ , K

$\delta_t$  温度不均一率

$\eta_b$  燃焼効率, %

$\Theta$  無次元化温度,  $(T - T_5)/\Delta T$

$\Pi$  無次元化圧力,  $(P \text{ 又は } p - P_5)/\Delta P$

$\sigma_t$  出口温度標準偏差, K

$\phi$  全圧損失係数

### 添 字

4 燃焼器入口

5 " 出口

i 内径側

o 外径側

### 参 考 文 献

- 1) 鈴木邦男; 高圧形環状燃焼器模型(呼称CC60H)  
の設計, 航技研資料 NAL TM-356  
(1978/7), 限定配布
- 2) 鈴木邦男, 斎藤 隆, 石井浅五郎, 山田秀志, 堀内  
正司, 下平一雄; 航空用ガスタービン排気制御の研究  
(V) -アニュラ形燃焼器模型による実験-, 航技研  
資料 NAL TM-355 (1978/7)
- 3) 鈴木邦男, 堀内正司, 松木正勝, 鳥崎忠雄; 環状  
(アニュラ形)燃焼器高圧燃焼試験装置, 航技研報告  
NAL TR-540 (1978/8)
- 4) 鈴木邦男, 石井浅五郎; 高圧燃焼器の研究(V)-  
実機装着形ライナの燃焼実験結果-, 航技研資料  
NAL TM-318 (1976/10), 限定配布
- 5) 小倉五郎, 黒沢要治, 鈴木邦男; 航空宇宙技術研究  
所のジェットエンジン要素試験用空気源設備の運転と  
保守, 航技研報告 NAL TR-531  
(1978/3)
- 6) 田丸 卓, 鈴木邦男; 燃料蒸発管に関する研究  
(IV)-蒸発管付箱形燃焼器の特性-, 航技研資料  
NAL TM-282 (1975/8)
- 7) 鈴木邦男, 石井浅五郎, 広瀬健樹, 大塚貞吉, 山中

国産；軽量ジェットエンジン研究試作2号機（JR  
200）の燃焼器（I），航技研資料 NAL TM  
-93 (1966/10)

## 付 錄

以下に，今回の一連の試験で得た主要計測値を表示する。

付表 1 C C 5 0 H / 6 0 0 0 - 0 1 - 7 8 0 2 0 8 試験データ

実験番号	$P_4^*$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_f^*$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$P_{fM}$ kg/cm <sup>2</sup> G	f	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$ deg	$\sigma_t$ deg	$\Delta P/P_4^*$	$\phi^*$	$\eta_b$ %	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> atm
10	1.119	492.7	2.137	16.64	0.0295	3.5	0	0.0138	941	1072	448.0	0.292		0.0510	52.0	85.7	3.41
20	2.545	517.0	4.598	16.52	0.0252	2.2	0	0.0055	724	779	206.9	0.268		0.0476	51.8	95.7	1.23
30	2.545	521.1	4.580	16.58	0.0457	8.1	0	0.0099	895	989	373.5	0.252		0.0486	52.9	97.5	2.46
40	2.571	526.7	4.580	16.59	0.0703	12.4	0	0.0154	1075	1307	548.3	0.423		0.0455	49.9	95.9	3.97
50	2.606	528.8	4.559	16.35	0.0913	12.4	0.1	0.0200	1215	1389	686.0	0.254		0.0464	52.6	94.3	5.00
60	3.972	546.8	6.373	16.40	0.0385	5.6	0	0.0057	773	841	226.3	0.299		0.0408	47.6	101.3	1.29
70	4.024	552.2	7.007	17.00	0.0676	12.3	0	0.0096	931	1142	379.3	0.559		0.0442	48.5	102.7	2.48
80	4.024	559.0	6.919	16.99	0.0964	12.0	0.2	0.0139	1079	1285	519.5	0.397		0.0434	48.1	100.2	3.52
90	4.016	563.1	6.586	16.33	0.1319	12.2	0.5	0.0200	1269	1520	705.5	0.357		0.0430	52.1	97.9	4.74
100	5.118	575.4	8.584	17.06	0.0419	6.9	0	0.0049	773	864	198.1	0.457		0.0432	49.0	93.8	1.09
110	5.153	579.7	8.293	16.49	0.0794	11.8	0.1	0.0096	950	1103	370.1	0.411		0.0408	49.8	101.9	2.25
120	5.083	583.9	8.023	16.29	0.1161	13.2	0.3	0.0145	1118	1292	533.9	0.326		0.0400	50.4	100.0	3.46
130	5.214	585.1	8.495	16.85	0.1655	12.0	0.9	0.0195	1290	1460	704.4	0.242		0.0422	49.8	100.7	4.83
140	6.107	590.3	9.658	16.51	0.0524	11.4	0	0.0054	811	958	220.2	0.671		0.0367	45.6	104.7	1.36
150	6.133	594.6	9.327	15.99	0.0933	12.1	0	0.0100	983	1132	388.6	0.383		0.0369	49.2	103.0	2.37
160	6.177	596.4	9.906	16.91	0.1361	12.6	0.4	0.0137	1118	1323	522.0	0.391		0.0403	48.2	102.9	3.43
170	6.195	598.1	9.673	16.51	0.1898	12.5	1.4	0.0196	1316	1591	718.2	0.383		0.0389	48.9	102.3	4.74
180	6.457	603.1	10.087	16.66	0.0977	12.7	0	0.0097	983	1116	380.2	0.349		0.0376	46.8	104.1	2.38
190	6.527	605.4	10.111	16.58	0.1449	11.8	0.7	0.0143	1148	1343	542.4	0.359		0.0378	47.8	103.1	3.46
200	6.606	607.7	10.587	17.22	0.2043	12.7	1.6	0.0193	1322	1608	714.1	0.400		0.0418	49.1	103.5	4.84

\* 入口全圧分布調整 ピンの前の圧力を基準とした数値である。

付表2 C C 5 0 H / 6 0 0 0 - 0 2 - 7 8 0 2 1 0 試験データ

実験番号	$P_4^*$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_f^{**}$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$P_{fN}$ kg/cm <sup>2</sup> G	f	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$	$\sigma_t$ deg	$dP/P_4^*$	$\phi^{**}$	$\eta_b$	$\eta_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> atm
9200	1.122	290.0	3.487	17.69											0.0717	38.1	
9201	1.122	289.6	3.491	17.68											0.0722	38.3	
9202	1.122	289.4	3.493	17.68											0.0713	37.8	
9203	1.122	289.3	3.494	17.68											0.0713	37.8	
9204	1.122	289.0	3.496	17.67											0.0708	37.6	
9205	1.122	288.9	3.495	17.66											0.0713	37.9	
9206	1.122	288.9	3.429	17.33											0.0704	38.8	
9207	1.122	289.0	3.402	17.20											0.0708	39.7	
9208	1.122	289.2	3.427	17.33											0.0704	38.8	
9209	1.123	290.3	3.392	17.22											0.0699	39.3	
9210	1.122	290.4	3.390	17.22											0.0699	39.3	
9211	1.122	290.5	3.389	17.22											0.0699	39.3	
9212	1.122	290.8	3.387	17.22											0.0699	39.3	

\*,\*\* 入口全圧分布調整ピンの前の圧力を基準とした数値である

\*\* 燃焼器代表断面積はFJR710/10, /20の0.149 m<sup>2</sup>のままであり、 C C 5 0 H の 0.165 m<sup>2</sup>には未修正である。

付表3 CC50H/60.01-01-780213試験データ

実験番号	$P_4$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_r$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$P_{fN}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$f$	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$	$\sigma_t$ deg	$\Delta P / P_4$	$\phi$	$\eta_b$	$L_b \times 10^{-7}$ kg/m <sup>2</sup> atm
9010	1.056	337.4	1.912	1.080										0.0185	30.8		
9020	1.100	371.1	2.750	1.640										0.0394	31.2		
9030	1.143	366.9	3.476	2.079										0.0603	31.0		
10	2.539	472.9	5.448	1.795	0.0464	7.9	0	0.0085	809	923	336.0	0.341	45.2	0.0116	30.7	2.73	
20	2.495	482.4	4.668	1.596	0.0468	8.1	0	0.0100	871	958	388.1	0.224	45.4	0.0251	27.3	2.88	
30	2.546	498.4	4.715	1.633	0.0676	12.0	0	0.0143	1043	1296	544.5	0.465	94.9	0.0266	28.5	4.08	
40	2.532	505.4	4.497	15.87	0.0880	12.0	0.1	0.0195	1215	1409	709.5	0.274	85.5	0.0249	28.7	5.26	
50	4.060	532.4	7.015	16.26	0.0544	11.6	0	0.0078	845	939	312.2	0.304	40.1	0.0246	28.4	104.1	
60	4.044	540.9	6.836	16.17	0.0689	12.1	0	0.0100	937	1143	396.4	0.519	64.5	0.0237	28.1	103.2	
70	4.093	549.2	6.974	16.55	0.0174	11.9	0.2	0.0139	1079	1208	530.1	0.243	70.3	0.0260	30.0	101.9	
80	4.095	556.0	6.891	16.54	0.1348	11.9	0.5	0.0196	1269	1459	712.2	0.267	93.0	0.0243	28.4	101.0	
90	4.999	567.2	8.246	16.55	0.0514	10.6	0	0.0062	819	954	252.2	0.534	37.9	0.0236	28.0	104.3	
100	5.019	572.0	8.118	15.12	0.0785	10.7	0	0.0097	957	1114	385.4	0.407	53.5	0.0236	33.9	105.1	
110	5.019	576.5	7.894	16.02	0.1109	12.3	0.2	0.0140	1116	1233	539.4	0.218	60.0	0.0224	28.8	103.8	
120	5.055	579.0	7.841	15.88	0.1546	11.8	0.8	0.0197	1308	1488	728.5	0.247	87.1	0.0222	29.2	103.1	
130	5.993	593.0	9.116	15.95	0.0524	11.2	0	0.0057	826	961	233.4	0.575	34.7	0.0203	27.1	105.1	
140	6.064	597.5	9.324	16.25	0.0927	12.5	0	0.0099	995	1135	397.4	0.353	45.9	0.0219	28.4	106.1	
150	6.064	600.5	9.310	16.30	0.1331	13.5	0.5	0.0143	1151	1295	550.8	0.261	61.7	0.0219	28.4	104.8	
151	6.099	603.1	9.381	16.40	0.1374	13.6	0.5	0.0140	1141	1282	537.5	0.263	59.5	0.0226	29.1	104.4	
160	6.115	606.6	9.499	16.65	0.1887	13.2	1.3	0.0199	1339	1493	732.8	0.210	76.4	0.0237	29.7	103.6	
170	6.713	610.7	10.005	16.10	0.0503	10.3	0	0.0050	819	928	207.9	0.524	25.8	0.0224	30.3	106.9	
180	6.691	610.5	9.991	16.12	0.0986	12.5	0.2	0.0099	1007	1134	396.5	0.321	50.0	0.0224	30.1	106.9	
190	6.780	612.5	10.302	16.45	0.1435	12.7	0.5	0.0139	1156	1350	543.8	0.357	70.7	0.0236	30.6	106.3	
200	6.796	612.4	9.933	15.82	0.2019	12.6	1.7	0.0203	1352	1521	739.1	0.223	78.5	0.0221	31.0	102.4	
210	6.763	612.8	10.034	16.07	0.2185	12.8	2.0	0.0218	1399	1580	786.6	0.230	81.6	0.0234	31.8	102.5	

付表4 CC50H/6020-01-780217試験データ

実験番号	$P_4^*$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_r^*$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$P_{fM}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$f$	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$ deg	$\sigma_t$ deg	$\Delta P/P_4^*$	$\phi^*$	$\eta_b$	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> atm
9010	1.043	308.1	1.218	6.36										0.0096	41.9		
9020	1.060	339.5	1.798	10.18										0.0231	43.4		
9030	1.095	371.2	2.348	14.07										0.0415	44.5		
9040	1.113	387.4	2.615	16.10										0.0544	46.6		
9050	1.130	431.8	2.620	17.69										0.0615	48.6		
9060	1.148	439.3	3.005	20.34										0.0784	47.7		
10	2.539	489.9	4.872	16.62	0.0240	1.8	0	0.0049	667	679	177.6	0.318	28.1	0.0395	40.1	90.7	
20	2.539	493.2	4.669	16.04	0.0449	7.3	0	0.0096	859	977	365.6	0.322	44.7	0.0365	40.2	98.3	
30	2.609	498.0	4.929	16.64	0.0674	11.5	0	0.0137	1012	1335	514.2	0.627	1031	0.0409	42.2	99.5	
40	2.548	502.1	4.609	16.06	0.0918	11.7	0.1	0.0199	1208	1481	705.6	0.387	103.3	0.0414	46.2	97.0	
50	2.609	503.9	4.717	16.11	0.1057	11.3	0.2	0.0224	1286	1537	781.9	0.321	110.3	0.0384	42.8	96.8	
60	4.035	532.7	6.876	16.05	0.0335	4.0	0	0.0049	729	789	196.5	0.308	28.1	0.0361	42.8	102.3	
70	4.079	541.4	6.992	16.41	0.0694	11.3	0	0.0099	928	1127	386.2	0.516	72.1	0.0366	42.2	101.9	
80	4.061	546.0	6.697	15.92	0.0970	11.2	0.1	0.0145	1087	1312	540.9	0.417	79.2	0.0337	41.6	100.4	
90	4.131	550.1	6.984	16.44	0.1368	11.9	0.5	0.0196	1243	1501	693.0	0.372	123.5	0.0369	43.0	97.7	
100	4.079	551.9	6.929	16.57	0.1518	11.9	0.7	0.0219	1328	1581	776.4	0.325	103.6	0.0376	43.3	99.2	
110	5.103	567.9	8.129	15.99	0.0405	6.3	0	0.0050	768	845	200.6	0.382	30.0	0.0338	43.0	103.1	
120	5.129	572.7	8.300	16.39	0.0798	12.5	0	0.0096	948	1110	374.8	0.435	59.8	0.0339	41.4	102.7	
130	5.155	574.7	8.117	16.00	0.1158	11.6	0.2	0.0143	1106	1319	531.6	0.399	77.7	0.0339	43.7	100.7	
140	5.173	576.7	8.199	16.16	0.1594	12.2	0.8	0.0195	1284	1502	708.4	0.306	91.0	0.0350	44.3	101.3	
150	5.147	579.0	8.344	16.60	0.1814	12.5	1.1	0.0217	1342	1499	763.8	0.205	81.7	0.0357	43.0	98.8	
160	6.127	588.3	9.680	16.43	0.0449	7.9	0	0.0046	778	895	190.1	0.613	30.4	0.0328	40.9	105.0	
170	6.127	592.0	9.773	16.69	0.0930	13.0	0	0.0092	955	1114	363.0	0.439	56.9	0.0336	40.9	103.7	
180	6.170	595.4	9.782	16.96	0.1389	12.4	0.4	0.0142	1124	1351	528.4	0.430	89.7	0.0357	43.8	101.0	
181	6.127	597.8	9.168	16.81	0.1336	12.6	0.3	0.0146	1141	1379	543.7	0.438	85.6	0.0303	41.5	101.5	
190	6.144	600.2	9.298	16.06	0.1862	12.3	1.3	0.0200	1304	1468	704.1	0.232	127.1	0.0320	42.7	98.4	
200	6.153	600.5	9.430	16.27	0.1982	12.6	1.5	0.0210	1344	1504	743.1	0.216	116.0	0.0339	44.1	99.5	
210	6.906	607.3	10.699	16.64	0.0493	9.9	0	0.0046	796	915	188.4	0.632	29.5	0.0333	41.9	105.3	
220	6.836	612.5	9.724	15.40	0.0984	13.8	0	0.0101	998	1163	385.0	0.422	58.1	0.0287	42.5	101.4	
230	6.897	614.3	10.347	16.29	0.2008	12.7	1.5	0.0194	1300	1458	703.5	0.231	155.4	0.0318	42.2	98.9	

\*入口全圧分布調整ピンの前の圧力を基準とした数値である。

付表5 CC50H/6002-02-780221試験データ

実験番号	$P_4$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$a$ kg/s	$U_r$ m/s	$f$ kg/s	$P_{fN}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$f$	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$ deg	$\sigma_t$ deg	$\Delta P/P_4$	$\phi$	$\eta_b$ %	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> hatm
9010	1.038	282.6	0.922	4.44									0.0047	3.8.8		
9020	1.054	282.2	1.315	6.23									0.0093	3.8.8		
9030	1.053	282.2	1.737	8.23									0.0158	37.6		
9040	1.069	282.2	2.190	10.23									0.0251	38.8		
9050	1.083	282.2	2.677	12.33									0.0342	36.5		
9060	1.096	282.5	3.104	14.14									0.0457	37.0		
9070	1.126	283.0	3.683	16.37									0.0600	36.3		
9080	1.166	284.1	4.366	18.81									0.0786	36.2		
9090	1.203	284.6	4.951	20.71									0.0958	36.4		
9100	1.268	285.6	6.031	23.96									0.1237	35.3		
9110	1.386	287.1	7.256	26.59									0.1592	37.1		
9200	1.126	289.5	3.572	16.24									0.0567	35.7		
9201	1.127	295.4	3.535	16.38									0.0575	36.3		
9202	1.127	298.2	3.518	16.46									0.0572	36.1		

付表 6 C C 5 0 H / 6 0 0 3 - 0 1 - 7 8 0 2 2 5 試験データ

実験番号	$P_4$ kg/cm <sup>2</sup>	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_r$ m/s	$w_f$ g/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$P_{fM}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$f$	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$	$\sigma_t$ deg	$\Delta P/P_4$	$\phi$	$\eta_b$ %	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> atm
9010	1.047	359.5	1.100	6.67										0.0086	39.8		
9020	1.065	380.7	1.615	1.021										0.0216	45.2		
9030	1.100	399.7	2.272	1.461										0.0400	43.0		
9040	1.108	413.0	2.442	1.609										0.0478	43.8		
9050	1.152	447.6	2.919	2.005										0.0712	45.4		
10	2.526	495.7	4.727	1.640	23.4	1.8	0	0.0050	685	724	189.0	0.206	24.4	0.0392	41.3	96.0	
11	2.490	506.1	4.382	15.75	21.1	1.4	0	0.0048	684	726	177.9	0.235	22.9	0.0341	39.9	93.2	
20	2.543	509.0	453.3	16.04	44.3	7.3	0	0.0103	876	954	366.8	0.214	41.5	0.0379	43.0	97.5	
30	2.560	510.5	4.424	15.95	63.6	11.7	0	0.0144	796	1250	522.3	0.417	49.0	0.0369	44.4	96.7	
40	2.560	512.9	4.421	15.66	89.0	11.4	0	0.0201	1202	1390	688.8	0.273	88.5	0.0367	44.0	93.9	
50	4.030	532.8	6.951	16.16	34.1	4.2	0	0.0049	730	772	197.5	0.210	24.3	0.0351	41.1	101.8	
60	4.022	540.8	6.876	16.35	69.2	12.3	0	0.0101	909	1104	385.7	0.461	71.6	0.0357	41.4	100.4	
70	4.092	545.0	6.979	16.44	96.5	12.2	0.9	0.0138	1011	1203	511.4	0.286	64.7	0.0364	42.2	99.0	
80	4.303	548.0	6.511	15.66	131.3	12.1	0.30	0.0202	1253	1469	705.0	0.221	88.6	0.0330	42.3	96.8	
90	5.080	567.3	8.134	16.06	79.3	12.1	0	0.0097	939	1064	371.8	0.336	57.9	0.0324	40.9	100.3	
100	5.045	571.5	8.284	16.59	116.3	11.9	0.18	0.0140	1092	1206	512.2	0.238	65.4	0.0344	40.9	98.4	
101	5.141	572.8	8.343	16.43	116.4	11.9	0.09	0.0139	1086	1207	512.8	0.236	64.2	0.0337	41.1	99.1	
110	5.115	575.8	8.130	16.18	161.2	11.8	0.86	0.0198	1279	1436	702.9	0.223	89.8	0.0332	41.9	98.6	
120	5.981	590.8	9.335	16.30	93.0	12.7	0	0.0100	964	1090	373.7	0.337	66.3	0.0319	40.7	99.2	
130	6.051	593.6	9.172	15.91	13.3	12.4	0.38	0.0145	1111	1285	517.8	0.334	97.1	0.0298	40.1	97.1	
140	6.095	596.9	9.512	16.48	184.8	12.3	1.23	0.0196	1285	1459	687.9	0.255	84.3	0.0331	41.6	98.8	
150	6.095	598.6	9.573	16.62	197.1	12.8	1.38	0.0206	1298	1500	699.5	0.288	163.5	0.0334	41.4	95.2	
160	6.796	606.7	10.309	16.27	100.6	13.0	0	0.0098	978	1101	371.1	0.331	44.8	0.0301	39.5	100.9	
170	6.821	608.5	10.496	16.55	146.4	12.2	0.51	0.0139	1131	1271	522.6	0.268	67.9	0.0315	40.1	101.8	
180	6.786	610.2	9.933	15.81	201.1	13.0	1.44	0.0202	1330	1512	719.4	0.253	87.1	0.0290	40.6	99.8	
190	6.829	611.2	10.671	16.89	223.8	12.5	2.0	0.0210	1347	1519	735.9	0.233	84.7	0.0349	42.8	98.9	
191	6.820	612.1	9.702	15.39	208.7	13.0	1.71	0.0215	1357	1509	744.5	0.204	87.5	0.0284	42.2	97.8	
192	6.838	612.0	10.256	16.23	234.0	12.5	2.44	0.0228	1396	1545	784.2	0.190	90.3	0.0315	42.0	97.8	
9060	6.872	611.4	104.09	1637										0.0298	39.0		
9070	6.767	608.5	8.833	1411										0.0221	38.9		
9080	6.662	606.5	618.8	1004										0.0112	38.6		

付表7 CC50H/6004-01-780227試験データ

実験番号	$P_4$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_r$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$f$	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$	$\Delta T$ deg	$\delta_t$ deg	$\sigma_t$ deg	$\phi$	$\eta_b$ %	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> h atm
9010	1.041	371.9	0.939	5.93										0.0077	4.6.6
9020	1.059	391.7	1.500	9.81										0.0180	4.4.1
9030	1.085	404.5	2.185	14.41										0.0369	4.1.2
9040	1.102	413.8	2.386	15.83										0.0454	4.2.9
9050	1.146	426.3	3.034	19.95										0.0698	4.2.9
10	2.520	483.7	4.770	16.19	0.0237	1.7	0	0.0050	666	721	182.6	0.300	28.5	0.0371	3.9.3
20	2.537	496.5	4.668	16.15	0.0455	7.6	0	0.0098	882	1116	385.3	0.609	52.8	0.0372	4.0.6
30	2.555	503.7	4.741	16.53	0.0662	10.3	0	0.0139	1035	1224	531.0	0.356	98.7	0.0389	4.1.3
31	2.520	505.5	4.819	17.09	0.0680	10.5	0	0.0141	1061	1255	555.9	0.349	94.7	0.0426	4.2.3
32	2.520	514.4	4.357	15.73	0.0635	11.3	0	0.0146	1052	1255	537.4	0.379	93.7	0.0349	4.1.6
40	2.537	516.4	4.434	15.96	0.0883	11.1	0	0.0199	1214	1350	697.4	0.195	76.1	0.0371	43.1
50	4.068	539.9	6.960	16.33	0.0437	4.3	0	0.0050	743	879	203.2	0.669	33.0	0.0339	3.9.4
60	4.060	549.1	6.653	15.91	0.0665	11.5	0	0.0100	949	1102	399.4	0.384	80.0	0.0315	3.9.1
70	4.042	553.6	6.619	16.03	0.0952	12.3	0	0.0144	1096	1251	542.8	0.286	67.3	0.0324	40.1
80	4.121	558.7	6.673	15.99	0.1335	12.1	0.4	0.0200	1274	1444	715.4	0.238	86.5	0.0332	41.6
90	5.057	571.0	8.163	16.30	0.0798	12.2	0	0.0098	964	1240	392.7	0.703	69.0	0.0318	39.2
100	5.014	575.7	7.989	16.22	0.1126	11.9	0.2	0.0141	1110	1265	534.5	0.289	76.5	0.0317	39.8
110	5.101	582.8	7.714	15.58	0.1579	11.7	0.7	0.0204	1327	1490	744.0	0.219	87.2	0.0291	40.0
120	6.029	596.5	9.349	16.36	0.0916	12.8	0	0.0098	986	1238	389.1	0.648	62.5	0.0298	38.1
130	6.046	601.9	9.450	16.63	0.1341	12.5	0.4	0.0142	1138	1320	535.7	0.340	81.1	0.0312	38.9
140	6.134	604.9	9.043	15.77	0.1803	12.7	1.0	0.0199	1329	1476	724.1	0.204	81.1	0.0289	40.3
150	6.020	606.2	9.080	16.18	0.2171	12.4	1.9	0.0239	1459	1663	853.1	0.239	91.9	0.0304	40.4
160	6.597	612.7	9.541	15.67	0.0968	13.3	0	0.0102	1021	1372	408.3	0.858	74.8	0.0263	37.8
170	6.589	615.1	9.899	16.34	0.1406	12.3	0.4	0.0142	1151	1318	536.3	0.311	82.5	0.0291	38.5
180	6.597	616.4	9.838	16.25	0.1944	12.6	1.5	0.0198	1324	1481	707.9	0.221	106.7	0.0294	39.4
190	6.685	617.2	9.627	15.71	0.2034	12.5	1.7	0.0211	1381	1540	763.7	0.208	79.4	0.0277	39.6
191	6.659	617.9	9.470	15.54	0.2173	12.2	2.0	0.0229	1440	1614	821.7	0.212	87.7	0.0270	39.7
9060	6.571	618.9	9.661	16.09										0.0275	37.7
9070	6.493	620.3	8.286	14.00										0.0206	37.4
9080	6.396	619.4	6.018	1030										0.0109	36.5

付表 8 C C 5 0 H / 6 0 . 0 3 - 0 2 - 7 8 0 3 0 4 試験データ

実験番号	$P_4$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_T$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$P_{fW}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$f$	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$ deg	$\sigma_t$ deg	$\Delta P/P_4$	$\phi$	$\eta_b$ %	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> atm
1.0	7.388	591.0	121.14	171.3	0.1216	13.1	0.1	0.0100	969	1086	378.3	0.357	54.3	0.0380	35.5	99.2	2.49
2.0	7.688	598.9	118.64	16.38	0.1564	12.5	0.4	0.0132	1105	1280	505.9	0.346	65.8	0.0276	35.3	103.7	3.19
3.0	8.088	608.6	113.78	15.14	0.2221	12.3	1.8	0.0195	1305	1448	696.2	0.206	77.9	0.0239	36.4	99.7	4.14
4.0	9.488	631.3	151.71	17.85	0.1534	13.7	0.2	0.0101	1022	1178	390.9	0.399	54.7	0.0307	34.9	103.3	2.53
5.0	9.698	640.9	143.50	16.77	0.2033	15.0	1.1	0.0142	1177	1381	536.4	0.380	67.8	0.0267	34.8	103.6	3.30
6.0	9.698	646.7	137.42	15.79	0.2654	14.6	2.7	0.0199	1347	1491	699.8	0.207	77.2	0.0241	36.2	99.4	4.11
7.0	11.063	671.3	172.84	18.54	0.1681	15.0	0.3	0.0097	1041	1161	369.5	0.325	45.7	0.0308	34.5	102.2	2.35
8.0	11.167	676.7	162.76	17.44	0.2328	13.4	1.7	0.0143	1205	1367	527.8	0.312	66.2	0.0275	35.1	101.9	3.21
9.0	11.238	679.7	152.00	16.25	0.3016	13.0	4.0	0.0198	1388	1546	707.9	0.224	81.2	0.0238	35.2	101.5	4.13
11.0	12.602	685.8	170.94	16.45	0.3387	13.2	5.2	0.0198	1401	1586	715.6	0.258	83.0	0.0239	34.7	100.8	4.18
901.0	11.063	684.0	20.097	21.97										0.0399	32.4		

付表9 CC51H/6003-03-780306試験データ

実験番号	$P_4$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_r$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$T_5$ K	$(T_5)_{\text{max}}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$ deg	$\sigma_t$ deg	$\Delta P/P_4$	$\phi$	$\eta_b$ %	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> h atm		
10	1.365	545.1	2.211	154.5	0.0213	1.7	0	0.0096	873	931	328.3	0.183	36.7	0.0282	3.6.9	88.9	2.2.3
11	1.505	536.7	2.407	151.6	0.0237	2.0	0	0.0098	875	938	338.2	0.188	36.9	0.0289	38.7	90.1	2.2.5
40	2.748	517.3	4.786	158.7	0.0472	8.7	0	0.0099	904	985	386.8	0.209	40.2	0.0326	38.4	101.9	2.7.3
50	2.800	515.4	4.490	146.0	0.0679	11.7	0.1	0.0151	1076	1252	560.3	0.315	100.4	0.0280	38.8	99.5	3.7.4
60	2.870	514.9	4.256	135.0	0.0857	11.6	0.2	0.0201	1222	1369	707.1	0.209	82.6	0.0254	41.2	96.8	4.4.9
90	4.078	528.3	7.106	162.7	0.0711	12.6	0	0.0099	932	1065	403.2	0.331	74.1	0.0329	37.4	105.6	2.8.3
100	4.603	533.2	7.524	154.0	0.1033	12.4	0.3	0.0137	1062	1171	528.4	0.207	60.3	0.0286	40.0	103.0	3.5.8
110	5.128	539.4	7.523	139.9	0.1517	11.3	0.8	0.0201	1256	1422	716.9	0.231	82.2	0.0256	40.5	98.5	4.4.9
120	5.355	548.5	9.278	16.80	0.0936	12.4	0	0.0101	950	1033	401.9	0.206	45.0	0.0331	36.9	104.8	2.8.4
130	5.443	555.1	8.679	15.65	0.1251	12.0	0.3	0.0144	1103	1224	547.5	0.222	61.6	0.0290	35.0	102.5	3.6.8
140	5.408	557.1	7.904	14.40	0.1592	12.4	1.0	0.0201	1280	1441	723.1	0.223	82.4	0.0255	39.2	99.8	4.5.9
150	6.405	566.3	11.049	17.27	0.1091	12.4	0.3	0.0099	960	1051	393.9	0.231	43.2	0.0327	35.6	105.1	2.7.3
160	6.440	573.5	10.238	16.12	0.1469	12.2	0.7	0.0143	1119	1228	545.9	0.199	57.2	0.0290	36.8	103.0	3.5.6
170	6.405	578.4	9.376	14.97	0.1858	12.1	1.5	0.0198	1294	1458	715.1	0.230	80.2	0.0255	37.8	100.5	4.4.0
180	6.493	581.4	8.933	14.15	0.2190	12.0	2.3	0.0245	1417	1665	835.2	0.297	103.1	0.0241	40.1	97.1	4.9.4
9060	6.913	612.3	10.503	15.96										0.0260	34.8		
9050	1.488	567.7	2.810	18.95										0.0437	39.7		
9040	1.261	559.1	1.909	14.95										0.0274	39.1		
9030	1.191	541.3	1.574	13.00										0.0210	39.6		
9020	1.121	555.8	1.073	9.07										0.0116	44.8		
9010	1.068	551.5	0.469	4.28										0.0051	89.0		

付表 10 C C 5 1 H / 6 0 0 3 - 0 4 - 7 8 0 3 0 7 試験データ

実験番号	$P_4$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_r$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$P_{fM}$ kg/cm <sup>2</sup> G	f	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$	$\sigma_t$ deg	$\Delta P/P_4$	$\phi$	$\eta_b$ %	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> h atm
9010	1.086	326.9	1.062	5.65										0.0087	51.3		
9020	1.138	324.5	1.665	8.39										0.0154	40.6		
9030	1.191	317.6	2.189	10.32										0.0218	37.3		
9040	1.296	314.1	2.854	12.23										0.0309	37.2		
9050	1.488	311.0	3.816	14.10										0.0423	38.0		
9060	2.047	307.8	6.006	15.97										0.0553	36.9		
9061	2.626	306.6	7.812	16.13										0.0545	36.8		
9200	2.140	306.8	6.333	16.05										0.0552	37.7		
9201	2.132	323.4	6.146	16.48										0.0541	36.9		

付表 11 C C 5 1 H / 6 0 0 3 - 0 5 - 7 8 0 3 0 8 試験データ

実験番号	$P_4$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_r$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$P_{fM}$ kg/cm <sup>2</sup> G	f	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$	$\sigma_t$ deg	$\Delta P/P_4$	$\phi$	$\eta_b$ %	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> h atm
9010	1.097	294.0	1.302	6.17										0.0101	43.8		
9011	1.097	294.1	1.304	6.18										0.0106	46.9		
9020	1.132	293.9	1.752	8.04										0.0138	35.7		
9030	1.184	293.6	2.264	9.92										0.0221	37.7		
9040	1.307	293.3	3.034	12.04										0.0327	38.1		
9050	1.499	293.3	4.062	14.05										0.0443	37.7		
9060	2.409	296.2	7.332	15.94										0.0546	36.5		
9061	2.619	300.5	7.962	16.15										0.0550	36.4		
9200	2.042	308.2	5.969	15.93										0.0536	37.3		
9201	2.043	323.2	5.885	16.38										0.0541	37.4		

付表12 CC52H/6003-06-780313試験データ

実験番号	$P_4$ kg/cm <sup>2</sup> abs	$T_4$ K	$w_a$ kg/s	$U_r$ m/s	$w_f$ kg/s	$P_{fP}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$P_{fM}$ kg/cm <sup>2</sup> G	$f$	$T_5$ K	$(T_5)_{\max}$ K	$\Delta T$ deg	$\delta_t$ deg	$\sigma_t$ deg	$\Delta P/P_4$	$\phi$	$\eta_b$ %	$L_b \times 10^{-7}$ kcal/m <sup>2</sup> hatm
9010	1.074	379.6	0.952	5.95										0.0067	4.09		
9020	1.105	392.8	1.290	8.11										0.0119	4.07		
9030	1.148	408.1	1.620	10.18										0.0186	41.9		
9040	1.200	419.6	1.957	12.09										0.0254	41.8		
9050	1.282	429.2	2.388	14.13										0.0339	41.8		
9060	1.405	439.2	2.935	16.23										0.0441	42.2		
9070	1.650	453.0	3.772	18.07										0.0539	42.9		
9080	2.175	466.0	5.178	19.61										0.0606	42.1		
10	2.392	477.8	3.986	14.08	0.0572	12.7	0	0.0144	997	1116	519.4	0.228	58.1	0.0312	43.2	95.6	
20	2.336	484.7	4.775	17.51	0.0236	1.8	0	0.0049	663	707	178.5	0.246	26.0	0.0465	42.7	90.8	
30	2.469	486.5	4.436	15.45	0.0444	7.3	0	0.0100	862	955	375.1	0.250	57.6	0.0367	42.8	97.1	
40	2.526	489.3	4.180	14.32	0.0549	11.6	0	0.0131	1017	1237	527.4	0.418	79.3	0.0322	44.0	106.1	
50	2.606	490.4	3.957	13.17	0.0789	11.5	0.1	0.0199	1173	1365	682.1	0.283	95.9	0.0282	45.8	93.3	
60	4.046	507.0	6.683	14.81	0.0939	11.9	0.1	0.0139	1023	1178	515.8	0.301	56.2	0.0315	41.7	97.4	
70	5.011	523.6	8.190	15.13	0.1167	11.5	0.3	0.0142	1047	1203	523.3	0.299	61.0	0.0314	41.2	98.0	
80	6.107	550.3	9.827	15.66	0.1407	12.2	0.4	0.0143	1081	1225	530.3	0.273	60.1	0.0327	42.1	99.6	
90	6.959	574.6	11.934	17.43	0.1209	12.8	0.1	0.0101	968	1109	393.3	0.359	52.3	0.0381	41.3	102.6	
100	7.064	580.7	11.240	16.33	0.1613	12.8	0.8	0.0143	1122	1266	540.8	0.268	64.1	0.0331	41.3	102.1	
110	7.120	589.5	10.550	15.44	0.2024	12.6	1.6	0.0192	1287	1416	697.7	0.185	74.1	0.0288	40.8	101.2	
120	7.286	594.8	10.469	15.11	0.2273	12.2	2.3	0.0217	1367	1536	772.0	0.219	82.9	0.0274	41.0	100.4	
9090	6.446	590.6	12.342	19.99										0.0482	40.8		
9100	6.502	591.8	10.189	16.40										0.0309	38.9		
9110	6.649	592.7	8.893	14.01										0.0224	38.7		
9120	6.554	591.7	6.784	10.83										0.0135	39.1		
9130	6.712	590.4	3.990	6.21										0.0038	33.8		

昭和 54. 4. 20

記番号

171

所長 管理部

河崎俊夫 殿

北西課長

配布先限定文献の取扱いについての注目

この文献（航空宇宙技術研究所資料 TN-365）は、  
配布先限定につき、取扱いには十分注意して下さい。

なお、貴殿の番号は上記番号です。また転送取の際には企画室  
担当係まで。御連絡下さい。

## TM-365 正 誤 表

頁	誤	正
P 8 , 図 1 1	ストラッド	ストラット
P 3 0 , 左側 4 行目	4 . 2 . 3	4 . 3 . 4
P 3 1 , 左側 2 8 行目	三日目	三日月

---

## 航空宇宙技術研究所資料 365 号

昭和53年9月発行

発行所 航空宇宙技術研究所  
東京都調布市深大寺町 1880  
電話武藏野三鷹(0422)47-5911(大代表) 〒182

印刷所 株式会社 実業公報社  
東京都千代田区九段南4-2-12

---

Printed in Japan